

志木市遺跡群 26

中野遺跡第87地点

中道遺跡第74地点

田子山遺跡第129地点

2023

埼玉県志木市教育委員会

はじめに

志木市教育委員会
教育長 柚木 博

ここに刊行する『志木市遺跡群26』は、平成25年度に国庫補助事業として、教育委員会が発掘調査を実施した成果をまとめたものです。

今回報告する遺跡は、中野遺跡第87地点、中道遺跡第74地点、田子山遺跡第129地点の3地点です。

中野遺跡第87地点の調査では、中世以降の段切状遺構1か所・掘立柱建築遺構1棟・土坑7基・井戸跡1基などが発見されました。

中道遺跡第74地点の調査では、縄文時代の土坑2基・ピット26本、中世以降の段切状遺構1か所・土坑19基・溝跡4本・ピット371本が発見されました。

田子山遺跡第129地点の調査では、縄文時代の集石1基、平安時代の住居跡1軒・土坑2基が発見されました。

今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別の御理解と御協力を頂いた事業主体者、そして深い御理解と御協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者に対し、心から感謝申し上げる次第です。

例 言

1. 本書は、埼玉県志木市に所在する遺跡群のうち、平成25年度に発掘調査を実施した中野遺跡第87地点、中道遺跡第74地点、田子山遺跡第129地点の3地点分の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘作業・整理作業・報告書刊行作業は、志木市教育委員会が主体となり、国庫及び県費の補助金の交付を受け実施した。
3. 本書の作成において、編集は大久保 聡が行った。執筆は下記以外を大久保が行った。なお、中世以降の遺物については、和光市教育委員会文化財調査指導員 野澤 均氏にご教示を頂いた。
尾形則敏 第2章第2節、第3章第2節、第4章第2節(6) ②平安時代以降の遺物
徳留彰紀 第3章第4節(1)、第4章第2節(6) ①縄文時代の土器
4. 遺物の実測は、星野恵美子・松浦恵子・増田千春が行った。遺構・遺物のデジタルトレースは深井恵子・青木 修・池野谷有紀が行った。遺物の写真撮影は青木が行った。
5. 発掘作業における表土剥ぎ・埋戻し作業については、株式会社大塚屋商店に委託し、重機オペレータは田中三二が担当した。
6. 本書に掲載した石器については、有限会社アルケーリサーチ（取締役社長 藤波啓容）に実測を委託した。
7. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターに一括して保管している。

8. 調査組織（令和4年度）

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	柚木 博
教育政策部長	今野美香（令和4年度～）
生涯学習課長	土崎健太
生涯学習課副課長	吉成和重
生涯学習課主幹	浅見千穂
生涯学習課主査	徳留彰紀
”	大久保聡（令和4年度～）
生涯学習課主任	尾形則敏（令和4年度～）
”	石川千尋
生涯学習課主事	塚原会里（令和4年度～）
生涯学習課主事補	木村結香
調査担当者	徳留彰紀
”	大久保聡
”	尾形則敏
”	木村結香
志木市文化財保護審議会	井上國夫（会長）
”	深瀬 克（委員）

” 上野守嘉(委員)
” 新田泰男(委員)
” 金子博一(委員)

9. 発掘作業及び整理作業参加者

<中野遺跡第87地点>

○発掘調査

調査担当者 大久保 聡・尾形 則敏
調査員 青木 修
調査補助員 星野恵美子・鈴木 浩子
作業員 青木 栄一・小林 律・二階堂美知子・増田 千春・林 ゆき子・
松浦 恵子・村田 浩美
重機オペレータ 田中 三二(株式会社大塚屋商店)

○整理作業

調査員 深井 恵子・青木 修
調査補助員 星野恵美子
作業員 池野谷有紀・二階堂美知子・林 ゆき子・村田 浩美・山口 優子

<中道遺跡第74地点>

○発掘調査

調査担当者 大久保 聡・尾形 則敏
調査員 青木 修
調査補助員 星野恵美子・鈴木 浩子
作業員 青木 栄一・小林 律・二階堂美知子・増田 千春・林 ゆき子・
松浦 恵子・村田 浩美
重機オペレータ 田中 三二(株式会社大塚屋商店)

○整理作業

調査員 深井 恵子・青木 修
調査補助員 星野恵美子・鈴木 浩子
作業員 青木 栄一・池野谷有紀・小林 律・二階堂美知子・林 ゆき子・
松浦 恵子・村田 浩美・山口 優子

<田子山遺跡第129地点>

○発掘作業

調査担当者 大久保 聡・尾形 則敏
調査員 青木 修
調査補助員 星野恵美子
作業員 林 ゆき子・松浦 恵子
重機オペレータ 田中 三二(株式会社大塚屋商店)

○整理作業

調査員 深井 恵子・青木 修

調査補助員 星野恵美子

作業員 松浦恵子・林 ゆき子・村田浩美・二階堂美知子・山口優子

10. 発掘作業・整理作業・報告書刊行作業には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館・富士見市立難波田城資料館

11. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

〈中野遺跡第87地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成26年5月30日付け 教生文第5-154号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成26年8月25日付け 教生文第7-68号

〈中道遺跡第74地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成25年12月11日付け 教生文第5-1212号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成26年10月7日付け 教生文第7-147号

〈田子山遺跡第129地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成25年11月12日付け 教生文第5-984号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成26年3月31日付け 教生文第7-217号

凡 例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第1図 1：10,000「志木市全区」アジア航測株式会社調製

第2・10・27図 1：2,500 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成27年
4月発行株式会社ゼンリン

2. 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。
3. 遺構挿図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。また、同一遺構の水系レベルは統一して示した。
4. ビット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるビットでも、おそらく後世のビットと思われるものには、数値を省略した。
5. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
6. 遺構挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内にその内容を示したが、遺物挿図版中のスクリーントーンは、土器の赤彩範囲を示す。
7. 土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は〔 〕、推定値は（ ）を付した。

高：器高 口：口径 底：底径 厚：器厚

8. 土器・土製品一覧で使用した色調は、『新版 標準土色帖 1999年版』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修を参考にした。
9. 遺構の略記号は、以下のとおりである。

S = 集石 H = 平安時代の住居跡 T = 掘立柱建築遺構 D = 土坑 W = 井戸跡
M = 溝跡 P = ビット

目 次

はじめに

例 言／凡 例／目 次／挿図目次／表 目 次／図版目次

第1章 遺跡の立地と環境	1
第1節 市域の地形と遺跡	1
第2章 中野遺跡第87地点の調査	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 検出された遺構・遺物	12
第3章 中道遺跡第74地点の調査	22
第1節 遺跡の概要	22
第2節 縄文時代の遺構・遺物	27
第3節 中世以降の遺構・遺物	30
第4節 遺構外出土遺物	58
第4章 田子山遺跡第129地点の調査	61
第1節 遺跡の概要	61
第2節 検出された遺構・遺物	64
第5章 調査のまとめ	72
第1節 中野遺跡第87地点の調査成果	72
第2節 中道遺跡第74地点の調査成果	72
第3節 田子山遺跡第129地点の調査成果	73
〔付編〕自然科学分析	
I. 田子山遺跡第129地点の放射性炭素年代測定	77
II. 田子山遺跡第129地点出土の炭化材の樹種同定	79

図 版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図	市域の地形と調査地点 (1/20,000)	2
第2図	中野遺跡の調査地点 (1/3,000)	10
第3図	確認調査時の遺構分布 (1/150)	11
第4図	遺構分布図 (1/150)	11
第5図	段切状遺構・基本土層図 (1/80)	13
第6図	1号掘立柱建築遺構 (1/60)	15
第7図	土坑 (1/60)	17
第8図	8号井戸跡 (1/60)	19
第9図	遺構外出土遺物 (1/3)	21
第10図	中道遺跡の調査地点 (1/3,000)	23
第11図	確認調査時の遺構分布 (1/200)	24
第12図	遺構分布図・段切状遺構土層図 (1/100)	25
第13図	縄文時代の土坑 (1/60)	27
第14図	縄文時代のピット1 (1/60)	28
第15図	縄文時代のピット2 (1/60)	29
第16図	中世以降の土坑1 (1/60)	33
第17図	中世以降の土坑2 (1/60)	35
第18図	中世以降の土坑3 (1/60)	38
第19図	中世以降の土坑4 (1/60)	39
第20図	中世以降の土坑出土遺物 (1/4・1/3)	41
第21図	25・26号溝跡 (1/60)	42
第22図	27号溝跡 (1/60)	44
第23図	28号溝跡 (1/60)	45
第24図	中世以降のピット (1/60)	47
第25図	中世以降のピット出土遺物 (1/3・4/5)	58
第26図	遺構外出土遺物 (1/4・1/3)	59
第27図	田子山遺跡の調査地点 (1/3,000)	62
第28図	確認調査時の遺構分布 (1/100)	63
第29図	遺構分布図 (1/100)	63
第30図	72号住居跡 (1/60)	64
第31図	72号住居跡出土遺物 (1/4)	65
第32図	土坑 (1/60)	66
第33図	218号土坑出土遺物 (1/4)	66
第34図	7号集石 (1/30)	68
第35図	7号集石出土遺物 (1/3・2/3)	68
第36図	1号ピット (1/60)	69
第37図	遺構外出土遺物 (1/4・1/3)	70
第38図	暦年較正結果	79

表 目 次

第1表	志木市埋蔵文化財包蔵地一覧	1
第2表	段切状遺構出土陶器・土器一覧	14
第3表	1号掘立柱建築遺構ピット一覧	16
第4表	中世以降の土坑一覧	18
第5表	中世以降のピット一覧(1)	20
	中世以降のピット一覧(2)	21
第6表	中道遺跡第74地点の発掘調査工程表	24
第7表	縄文時代のピット一覧	30
第8表	段切状遺構出土陶器・土器一覧	31
第9表	中世以降の土坑一覧	40
第10表	中世以降の土坑出土陶器・土器一覧	41
第11表	溝跡出土陶磁器・土器一覧	46
第12表	中世以降のピット一覧(1)	48
	中世以降のピット一覧(2)	49
	中世以降のピット一覧(3)	50
	中世以降のピット一覧(4)	51
	中世以降のピット一覧(5)	52
	中世以降のピット一覧(6)	53
	中世以降のピット一覧(7)	54
	中世以降のピット一覧(8)	55
	中世以降のピット一覧(9)	56
	中世以降のピット一覧(10)	57
第13表	遺構外出土土器一覧	60
第14表	遺構外出土陶磁器・土器一覧	60
第15表	72号住居跡出土土器一覧	65
第16表	218号土坑出土土器一覧	67
第17表	遺構外出土土器一覧	71
第18表	測定試料および処理	77
第19表	放射性炭素年代測定および暦年校正の結果	78
第20表	田子山遺跡第129地点出土炭化材の樹種同定結果	79

図版目次

- 図版1 中野遺跡第87地点
1. 調査区近景 2. 表土剥ぎ作業風景 3. 基本土層 4. 調査区東半段切面（北西から）
5. 調査区西半段切面（北から） 6. 調査区西半段切面（東から）
7. 1号掘立柱建築遺構（P1～P6）
- 図版2 中野遺跡第87地点
1. 1号掘立柱建築遺構P1 2. 1号掘立柱建築遺構P2 3. 1号掘立柱建築遺構P3
4. 1号掘立柱建築遺構P4 5. 1号掘立柱建築遺構P5 6. 1号掘立柱建築遺構P6
7. 121号土坑 8. 122号土坑
- 図版3 中野遺跡第87地点
1. 123号土坑 2. 124号土坑 3. 125号土坑 4. 126号土坑 5. 127号土坑
6. 8号井戸跡 7. 段切状遺構出土遺物 8. 遺構外出土遺物
- 図版4 中道遺跡第74地点
1. 調査区近景 2. 確認調査風景 3. 表土剥ぎ作業風景 4. 調査風景
5. 172号土坑・265号ピット 6. 173号土坑 7. 258号ピット 8. 381号ピット
- 図版5 中道遺跡第74地点
1. 段切状遺構（北から） 2. 段切状遺構南半部（東から）
3. 段切状遺構南半部（西から） 4. 段切状遺構西端部（北から）
5. 段切状遺構（西から） 6. 段切状遺構北半部（南西から）
7・8. 調査風景
- 図版6 中道遺跡第74地点
1. 166号土坑 2. 167号土坑 3. 168号土坑 4. 169号土坑
5. 170・171号土坑 6. 174号土坑 7. 175・176号土坑 8. 177号土坑
- 図版7 中道遺跡第74地点
1. 178号土坑 2. 179号土坑 3. 180号土坑 4. 181号土坑 5. 182号土坑
6. 183号土坑 7. 184・185号土坑 8. 186号土坑
- 図版8 中道遺跡第74地点
1. 25号溝跡南半（北から） 2. 25号溝跡北半（北から） 3・4. 26号溝跡遺物出土状態
5. 26号溝跡（北から） 6. 27号溝跡（北東から） 7・8. 28号溝跡
- 図版9 中道遺跡第74地点
1. 6号ピット 2. 33号ピット 3. 51号ピット 4. 103号ピット遺物出土状態
5. 201号ピット 6. 274号ピット 7. 調査風景 8. 埋戻し作業風景
- 図版10 中道遺跡第74地点
1. 段切状遺構出土遺物 2. 土坑出土遺物 3. 溝跡出土遺物
- 図版11 中道遺跡第74地点
1. ピット出土遺物 2. 遺構外出土遺物

図版12 田子山遺跡第129地点

1. 調査区近景
2. 確認調査風景
3. 72号住居跡
4. 72号住居跡掘り方
5. 72号住居跡掘り方（東から）
6. 217号土坑
7. 218号土坑
8. 7号集石礫出土状態

図版13 田子山遺跡第129地点

1. 7号集石土層断面（B-B'）
2. 7号集石完掘
3. 1号ビット
4. 調査風景
5. 72号住居跡出土遺物
6. 218号土坑出土遺物
7. 7号集石出土遺物

図版14 田子山遺跡第129地点

1. 遺構外出土遺物
2. 田子山遺跡第129地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

第1章 遺跡の立地と環境

第1節 市域の地形と遺跡

(1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71km、東西4.73kmの広がりを持ち、面積は9.05㎢、人口約7万6千人の自然と文化の調和する都市である。

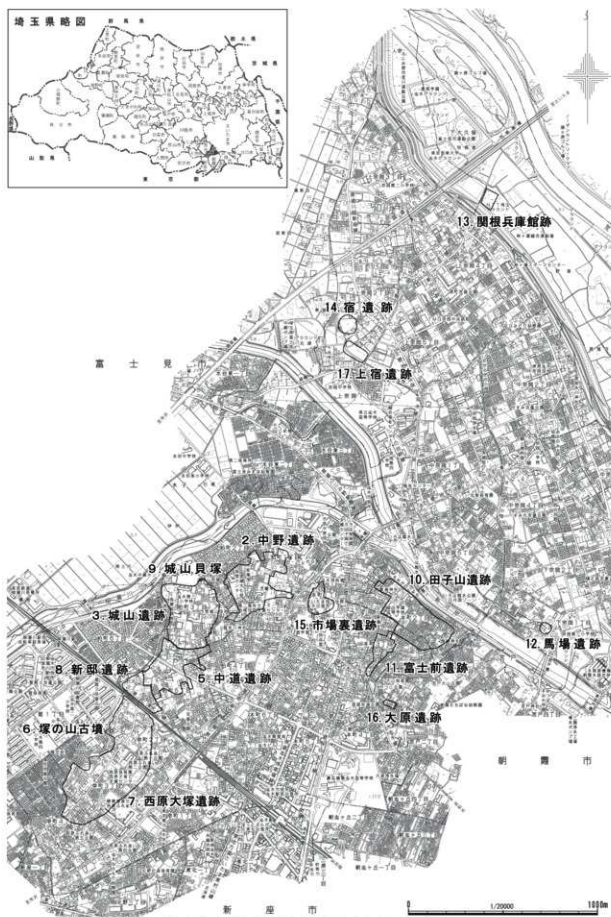
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の3本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、新邸遺跡（8）、中道遺跡（5）、城山

No.	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	71,220㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(早～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平・中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	82,520㎡	畑・宅地	貝塚・城館跡・集落跡・墓跡	旧石器、縄(草創～晩)、弥(中～後)、古(前～後)、奈・平・中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、跡造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、跡造関連遺物等
5	中道	54,420㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(早～後)、弥(後)、古(前～後)、平・中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800㎡	林	古墳?	古墳?	古墳?	なし
7	西原大塚	164,960㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(前～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平・中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	20,080㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄(早～中)、古(前～後)、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900㎡	林	貝塚	縄(前)	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74,030㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄(草創～晩)、弥(後)、古(後)、奈・平・中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム探掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14,830㎡	宅地	集落跡	縄文、弥(後)～古(前)、平安、近世以降	住居跡、土坑?、溝跡?	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800㎡	畑	集落跡	古(前)	住居跡?	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900㎡	グラウンド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700㎡	水田	館跡	中世	溝跡、并桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800㎡	宅地	集落跡・墓跡	弥(後)～古(前)、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大原	1,700㎡	宅地	集落跡	近世以降?	溝跡	なし
17	上宿	8,600㎡	水田・宅地	集落跡・墓跡	平安・中・近世	住居跡、土坑、溝跡、井戸跡	土師器、須恵器、陶磁器、板碑等
合計		523,260㎡					

令和5年2月20日現在

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



第1図 市域の地形と遺跡分布 (1/20,000)

遺跡(3)、中野遺跡(2)、市場裏遺跡(15)、田子山遺跡(10)、富士前遺跡(11)、大原遺跡(16)と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡(12)、宿遺跡(14)、関根兵庫館跡(13)が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡(17)が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳(6)、城山貝塚(9)を加えた15遺跡である(第1図・第1表)。

(2) 歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62(1987)年の富士見・大原線(現ユリノキ通り)の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で、礫群や石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6(1994)年度には2か所、平成7(1995)年度には1か所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。最新では、令和元(2019)年に第224地点で立川ローム層のⅣ層下部～Ⅴ層上部・Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14(1999～2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層のⅣ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。平成28(2016)年に発掘調査された中野遺跡第91㊦地点からは、礫群1基が検出された。令和元～2(2019～2020)年にかけて発掘調査された中野遺跡第109地点では、立川ローム層Ⅳ層下部～Ⅴ層を中心とする石器集中地点が検出されており、石核調整剥片の良好な接合資料が出土している。

城山遺跡では、平成13(2001)年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層のⅣ層上部とⅦ層の2か所で石器集中地点が検出されている。平成20・21(2008・2009)年に発掘調査が実施された第62地点(道路・駐車場部分)でも石器集中地点1か所が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23(2011)年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層のⅣ層下部～Ⅴ層上部で石器集中地点2か所、礫群9基が検出された。令和元(2019)年には第96地点で立川ローム層のⅣ層下部～Ⅴ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で石器集中地点と礫群が検出されている。

2. 縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期後葉(諸磯式期)の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4(1992)年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6(1994)年に発掘調査が実施された城山遺跡第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10(1998)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡としては、令和4(2022)年に田子山遺跡第172

地点で市内初となる燃糸文期の住居跡が1軒検出された。また、平成18(2006)年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点では、早期末葉(条痕文系)の10号住居跡が検出されている。土器としては、田子山遺跡で燃糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。平成23(2011)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から燃糸文系土器・石器がまとめて出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で前期中葉の黒浜式期の住居跡が検出され、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。令和元(2019)年度に発掘調査が実施された城山遺跡第96地点、令和3～4(2021～2022)年に実施された中野遺跡第116①地点では、前期後葉の諸磯a式期の住居跡が検出されている。そのうち、城山遺跡第96地点では貝層を持つ住居跡が3軒検出された。住居内貝層からヤマトシジミ・マガキが検出されている。平成2年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で200軒以上の住居跡が環状に分布していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡1軒が確認されているが、平成28(2016)年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曾利EⅣ式の両耳壺を出土する住居跡1軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡2軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1か所、平成25(2013)年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居(敷石住居)1軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成6(1994)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑1基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。その他、平成26(2014)年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28(2015・2016)年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期(称名寺式～堀之内式期)の遺物が比較的まとめて出土している。最新資料として、平成30(2018)年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第216地点で、堀之内1式期の住居跡が1軒検出されている。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢC式・千網式の土器片が少量発見されている。また、令和3(2021)年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第234地点で、遺構外出土ではあるが、縄文時代晩期～弥生時代初頭に位置づけられる土器片が1点発見されている。以降市内では弥生時代中期まで空白の時代となる。

3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については令和元(2019)年に発掘調査された城山遺跡第96地点で市内初となる宮ノ台式期の住居跡1軒、方形周溝墓1基が検出された。住居跡からは甕、甕、高坏、扶人柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。なお、これらの資料のうち、土器、石器、土製品計44点の城山遺跡10号住居跡出土遺物は、考古資料として、市指定文化財(令和3年7月1日付け)に指定されている。

弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成27・28

(2015・2016)年に発掘調査された中野遺跡第91地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。平成6(1994)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子(イネ・アワ・ダイズなど)、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、竈目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が650軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24(2012)年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅釧が出土している。

昭和62(1987)年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、平成15(2003)年に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18(2006)年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓制が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高環が出土していることに注目される。また、平成11(1999)年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺形土器が出土している。なお、鳥形土製品1と壺形土器4点の計5点は、考古資料として、市指定文化財(平成25年3月1日付け)に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15(2003)年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7(1995)年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後葉から7世紀後葉にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後葉以降、周辺地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期(7世紀中葉)の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化

材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後葉から7世紀後葉にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で265軒、次いで中野遺跡で58軒、中道遺跡で20軒、田子山遺跡で17軒、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後葉以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整形円で2か所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山・富士前遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成8（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「富」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器環や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶とくじゆじんぼうが2枚とその近くからは鉄鎌1点と土錘1点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群と南比企窯跡群の製品という生産地の異なる須恵器環が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

最新では、令和元（2019）年と令和3（2021）年に一般国道254号和光富士見バイパス事業に伴い発掘調査が実施された上宿遺跡により、平安時代の住居跡・土壇・溝跡などが検出され、宗岡地区における自然堤防上に立地する遺跡の存在が明らかになりつつある。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか9点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の富壽神寶ほか2点の遺物は、考古資料として、市指定文化財（平成25年3月1日付け）に指定されている。

6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と大塚千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、みこくら『館村旧記』きゆうき（註1）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、かいてくごつき『廻国雑記』かいてくごつき（註2）に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、おむつかにじゆうぎよくぼう『大塚十玉坊』についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山 1988・2002）。

また、平成7（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出され

ている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成8（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、鑄造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鑄造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鑄型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鑄造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鑄型、鍋の耳部分の小型鑄型、三叉状・四叉状土製品・トリペ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成6（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鎧の札である鉄製品1点と鉄鎌1点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑、その他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成27（2015）年度に第49地点の北側に隣接する第95地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新たに土坑45基・井戸跡2基・溝跡1本・ピット231本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「T字形」の火葬土坑5基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」に関連する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第2地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成7（1995）年の第37地点からは、人骨と古銭5枚を出土した土坑墓1基と13世紀に比定される青磁盤1点を出土した道路状遺構1条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第1地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の第8地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓2基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院」^{しょうりんざんくわんおんじだいじゆういん}に関連遺構と考えられる。その後、平成25（2013）年には、中道遺跡第74地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

最新資料としては、令和2・3年度に発掘調査を実施した西原大塚遺跡第234地点の地下式坑（912号土坑）から、人骨（女性2体）と完形品の播鉢が共存する良好な資料が発見された。人骨は「通常とは異なる状況」で埋葬されたと考えられ（田中 2022）、播鉢は古瀬戸後期IV古～新段階（藤澤 2008）に比定されることから、時期は中世（15世紀中葉～後葉）のものと考えられる。

また、令和元（2019）年と令和3（2021）年に一般国道254号和光富士見バイパス事業に伴い発掘調査が実施された上宿遺跡により、中・近世の土壇・井戸跡・溝跡などの多くの遺構が検出され、中世における『宗岡宿』の様相や近世における千光寺に関連する墓域群などを知ることができる貴重な成果

につながった。

7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治2～5年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鎌などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの錆着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

【註】

- 註1 『節村日記』は、節村（現在の志木市柏町・幸町・節）の名主宮原伸右衛門仲恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。
- 註2 『廻回雑記』は、左大臣近衛房親の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18（1486）年6月から10か月間、北陸路から関東各地をめぐる、駿河甲斐にも足をのぼし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

【引用文献】

- 神山健吉 1988「『廻回雑記』に現れる 大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第7号
2002「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第31号
- 田中 信 2022「第3章 調査のまとめ 第3節 中世以降について」『西原大塚遺跡第234地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第86集 埼玉県志木市教育委員会
- 藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

第2章 中野遺跡第87地点の調査

第1節 遺跡の概要

(1) 立地と環境

中野遺跡は、志木市柏町1丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北方約1.2kmに位置している。本遺跡は、北側に柳瀬川を臨む台地上に位置し、標高は北端で約9m、南端で約11mを測り、台地縁辺は緩やかに北側の低地に移行している。遺跡の西側には南北方向に谷が入り込んでおり、その谷の西側には城山遺跡が広がっている。遺跡の現況は、宅地化が急激に進んでおり、現在では畑地はほとんど見られなくなっている。

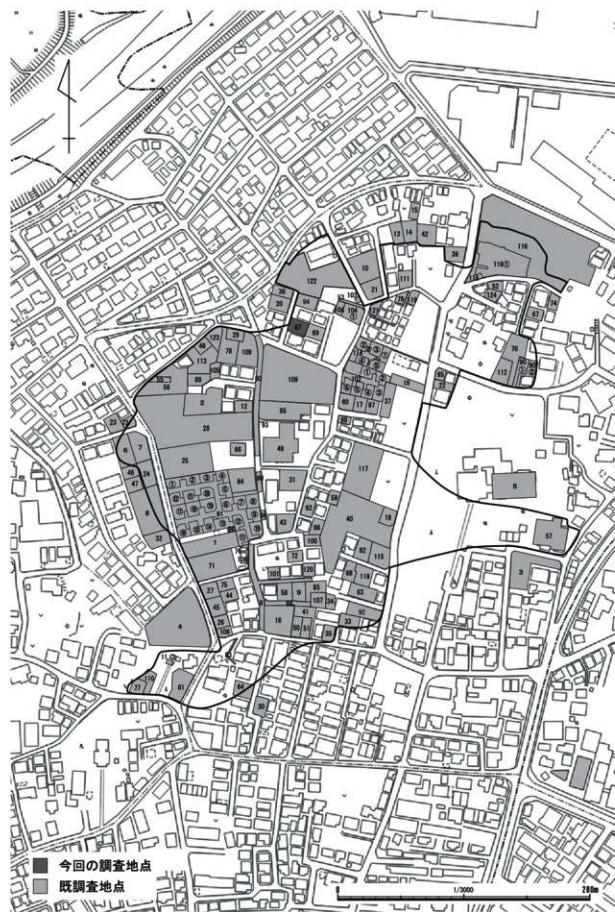
本遺跡の最初の発掘調査は、昭和59(1984)年に実施された第2地点で、これまでに124地点の調査(令和5年2月20日現在)が実施され(第2図)、旧石器時代、縄文時代早～晩期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。

(2) 発掘調査の経過

確認調査は、平成26年1月21日に実施した。調査区内に4本のトレンチ(1～4 Tr)を設定し、バックホーを使用し表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、中世以降の土坑3基・井戸跡1基・段切状遺構を確認した(第3図)。そのため、ただちに依頼者に調査の結果を報告し、保存対策について検討を依頼したが、地盤改良工事を実施するため宅地部分について盛土保存は不可能であるという回答を得た。よって、平成26年3月6日から、発掘調査を実施することに決定した。

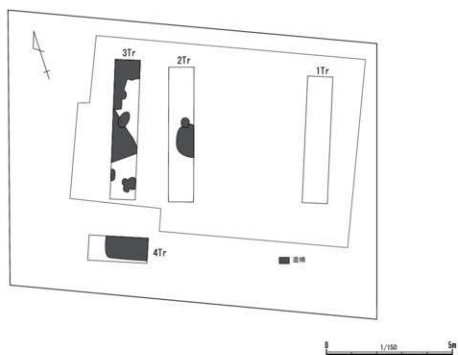
以下、発掘調査の大まかな経過を説明することとする。

- 3月6日 重機による表土剥ぎ作業を開始する。7日も引き続き表土剥ぎ作業を実施する。
- 10日 人員導入による発掘作業を開始する。表土剥ぎ作業を本日中に終了する。調査区全体が中世以降の段切状遺構であるため、遺構確認作業とともに段切状遺構の精査を行った。調査区東半部の遺構検出状況および段切状遺構東半部の写真撮影を行う。段切状遺構東半部の硬化面範囲の記録とコンター図を作成する。中世以降の土坑(121・122D)・井戸跡(8W)の精査を開始する。8Wでは掘削途中で湧水があったため、掘削を中止した。
- 11日 調査区西半部の遺構確認作業、段切状遺構の精査を実施し、遺構検出状況および段切状遺構全景の写真撮影を行う。段切状遺構西半部のコンター図を作成する。中世以降の掘立柱建物遺構(1T)・土坑(123～125D)の精査を開始する。8Wの精査を終了する。
- 12日 中世以降の土坑(126D)の精査を開始する。121～123・125Dの精査を終了する。
- 13日 精査を行ったが、雨天のため途中で精査を中止した。
- 14日 中世以降の土坑(127D)の精査を開始する。124・126・127Dの精査を終了する。
- 17日 1Tの精査を終了する。調査区西半部の遺構完掘状況の写真撮影を行う。基本土層を

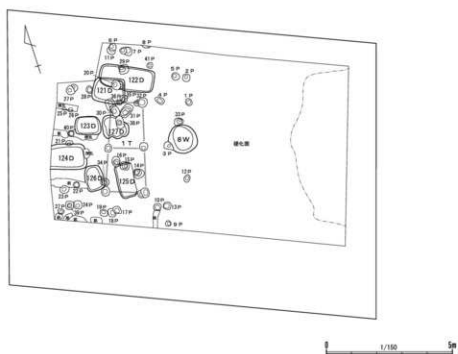


第2図 中野遺跡の調査地点 (1/3,000)

令和5年2月20日現在



第3図 確認調査時の遺構分布 (1/150)



第4図 遺構分布図 (1/150)

記録するため、123 D壁面を利用して深掘りを実施する。基本土層の記録を行う。

25日 埋戻し作業を開始する。27日に埋戻し作業を完了する。

(3) 基本層序

本調査区のローム層序を確認するため、調査区西側の123 Dの西壁面を利用して深掘りトレンチを設定し、土層の記録を行った(第5図)。確認された層位は、地層の色調や内容物の観察、層順から立川ローム第VI層～第X層と考えられる。立川ローム第Ⅲ～Ⅴ層は、段切状遺構の造成により削平されたものと考えられる。

立川ローム第VI層は黄褐色土で白色粒子を僅かに含む。いわゆるAT包含層である。立川ローム第Ⅴ層が確認されていないが、層厚はやや厚く、21cm前後である。立川ローム第Ⅶ層は第二黒色帯上部で、層厚はやや厚く、23～27cmである。立川ローム第Ⅸ層は第二黒色帯下部で、層厚は24～30cmである。立川ローム第Ⅹ層は上層までの確認であり、層厚については分からない。

第2節 検出された遺構・遺物

(1) 概要

本地点の調査では、中世以降の段切状遺構1か所・掘立柱建築遺構1棟(1T)・土坑7基(121～127D)・井戸跡1基(8W)・ピット41本(1～41P)が検出された。

前節(3)「基本層序と地形」で検討した中で、本調査地点では、立川ローム第Ⅲ～Ⅴ層が調査区全体にわたって削平され、段切状遺構が形成されていることが分かった。また、段切状遺構の平場面に中世以降の掘立柱建築遺構・土坑・井戸跡・ピットが構築されている。これらの遺構の分布傾向としては、調査区西半に限って認められ、調査区東半では遺構が検出されなかった。

(2) 段切状遺構

遺 構 (第5図)

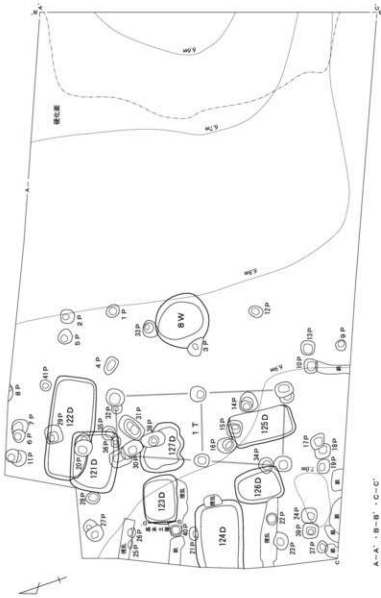
[位 置] 調査区全域。

[構 造] 遺構の広がり：今回の調査では、調査区全体に造成面が確認された。地形面の標高：第5図に等高線を示した。最も高い標高は調査区南西端の7.0mラインで、最も低い標高は調査区東端中央の6.6mラインであり、その差は0.4mである。等高線の間隔が広いことから、概ね平坦面と言えるが、調査区東端中央はB-B'セクションや等高線が示すように、やや窪んだ面となっている。面の状況：調査区全体に掘り面に工具痕が見られた。硬化面は調査区東端の一部を除き検出された。

[覆 土] 7層(4～11層)に分層される。覆土の堆積過程としては、段切状遺構掘削後、8～11層が造成面直上に薄く、部分的に堆積する。特に9層は東端中央の窪み面を中心に堆積している。9層が堆積後、東端中央～北東部に7層が堆積する。6層は調査区北東部にレンズ状に薄く堆積し、その後、4・5層が調査区全体を堆積する。南側では5層が造成面直上に堆積する箇所もある。

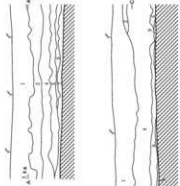
[遺 物] 陶器1点、土器1点が出土した。

[時 期] 中世以降。

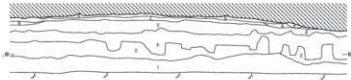


A-A'・B-B'・C-C'

- 1層 埋土
- 2層 埋土
- 3層 埋土
- 4層 埋土
- 5層 埋土
- 6層 埋土
- 7層 埋土
- 8層 埋土
- 9層 埋土
- 10層 埋土
- 11層 埋土
- 12層 埋土



第5図 段切状遺構・基本土層図(1/80)



- D-D' 基本土層
- V層 埋土
- VI層 埋土
- VII層 埋土
- VIII層 埋土
- IX層 埋土
- X層 埋土



図版番号	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時期
図版3-7-1	陶器	鍋	高5.0	内外面体部に鉄軸、口縁部は無軸/蓋受けあり/外面に甲き目/胎土：色調は灰黄色、精錬されている/口縁部～体部破片	不明	近世 (19c)
図版3-7-2	土器	焙烙	厚0.8	内外面：回転ナデ/胎土：色調は橙色、砂粒を多く含む、角閃石を僅かに含む/体部小破片	在地系	近世 (19c)

第2表 段切状遺構出土陶器・土器一覧

〔所見〕出土遺物の陶器・土器からの時期では、いずれも近世（19世紀）となるが、詳細時期については不明である。ここでは、中世以降と考えることとする。

〔遺物〕（図版3-7、第2表）

〔陶器・土器〕（図版3-7-1・2、第2表）

1は陶器の鍋、2は土器で焙烙である。

（3）掘立柱建築遺構

1号掘立柱建築遺構

〔遺構〕（第6図・第3表）

〔位置〕調査区西半部。

〔検出状況〕P1は32Pと重複、P4は121D、30Pに切られ、P6は126D、34Pと重複する。

〔構造〕平面形：柱穴6本のうち3本が2列に配される。規模：各ピットの規模については第3表に示した。直軸33～45cm・深さ40～58cmの規模をもつ。柱穴間距離（柱穴中心間）はP1-P2間：1.8m、P2-P3間：1.8m、P4-P5間：1.8m、P5-P6間：1.75m、P1-P4間：1.25m、P2-P5間：1.4m、P3-P6間：1.65m。主軸方位：N-19°-E。

〔覆土〕各柱穴の覆土は、第6図、第3表を参照。

〔遺物〕出土しなかった。

〔時期〕覆土の観察から、中世以降と思われる。

（4）土坑

121号土坑

〔遺構〕（第7図、第4表）

〔位置〕調査区北西隅。

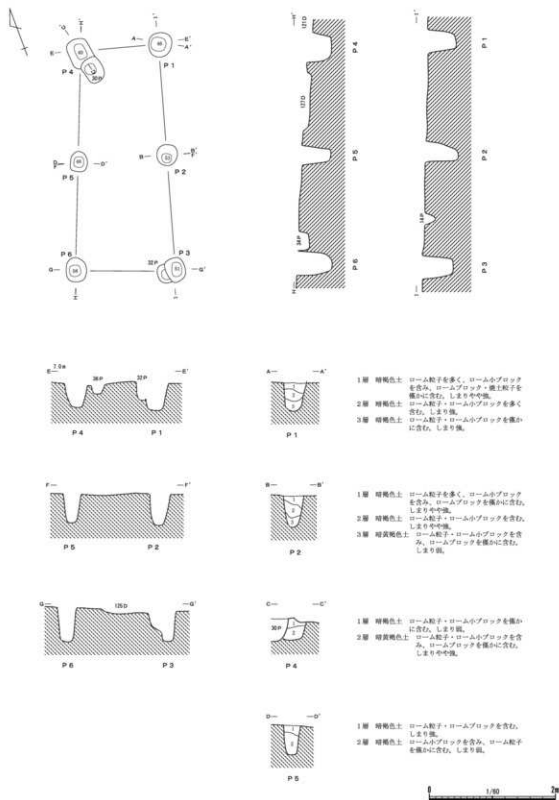
〔検出状況〕1T-P4、122D、20Pを切り、28・35・36Pと重複する。

〔構造〕平面形：長方形。規模：長軸1.30m/短軸1.00m/深さ15cm。壁：約80°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-65°-W。

〔覆土〕単層。

〔遺物〕出土しなかった。

〔時期〕覆土の観察から、中世以降と思われる。



第6図 1号掘立柱建築遺構 (1/60)

ピット 番号	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴等	主な遺物
		長軸	短軸	深さ		
P1	隅丸方形	40	37	46	3層/32Pと重複	遺物なし
P2	隅丸方形	34	32	53	3層	遺物なし
P3	隅丸長方形	45	40	51	2層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体/2本の重複形	遺物なし
P4	隅丸長方形	不明	36	40	2層/121D、30Pに切られる	遺物なし
P5	隅丸方形	33	27	48	2層	遺物なし
P6	隅丸長方形	40	32	58	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体/126D、34Pと重複	遺物なし

第3表 1号掘立柱建築遺構ピット一覧

122号土坑

遺構 (第7図、第4表)

位置 調査区北西隅。

検出状況 121D、20Pに切られ、29Pと重複する。

構造 平面形：長方形。規模：長軸2.20m/短軸0.97m/深さ25cm。壁：約80°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-63°-W。

覆土 単層。

遺物 出土しなかった。

時期 覆土の観察から、中世以降と思われる。

123号土坑

遺構 (第7図、第4表)

位置 調査区西隅。

検出状況 南側の上端は攪乱される。

構造 平面形：長方形。規模：長軸1.02m/短軸0.72m/深さ53cm。壁：約80°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-73°-W。

覆土 7層に分層される。

遺物 出土しなかった。

時期 覆土の観察から、中世以降と思われる。

124号土坑

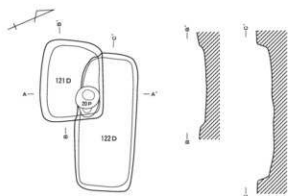
遺構 (第7図、第4表)

位置 調査区西隅。

検出状況 21Pを切る。東西方向に畝により攪乱される。

構造 平面形：長方形。規模：長軸1.43m/短軸1.03m/深さ42cm。壁：約80°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-72°-W。

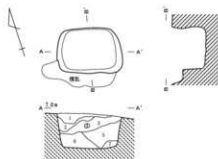
覆土 11層に分層される。



121D
1層 暗褐色土 ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。炭化動物骨を横断に含む。しまりや中塊。

122D
1層 暗褐色土 ローム小ブロック・ロームブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり。

121・122号土坑



1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロック・炭化動物骨を横断に含む。しまりや中塊。

2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり。

3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを横断に含む。しまりや中塊。

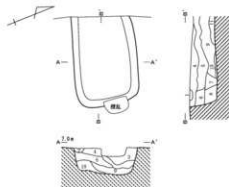
4層 ロームブロック。

5層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを横断に含む。しまり。

6層 暗褐色土 ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり。

7層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを横断に含む。しまりや中塊。

123号土坑



1層 暗褐色土 焼土粒子を含む。ローム粒子を横断に含む。しまりや中塊。

2層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを横断に含む。しまりや中塊。

3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり。

4層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。炭化動物骨を横断に含む。しまりや中塊。

5層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。炭化動物骨・焼土粒子を横断に含む。しまりや中塊。

6層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・焼土粒子を横断に含む。しまりや中塊。

7層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。炭化動物骨・焼土粒子を横断に含む。しまりや中塊。

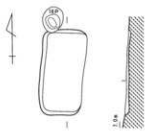
8層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。ローム小ブロック・炭化動物骨を横断に含む。しまりや中塊。

9層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロックを横断に含む。しまりや中塊。

10層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを横断に含む。しまり。

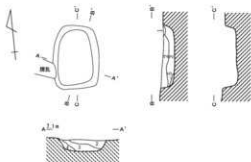
11層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり。

124号土坑



1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。炭化動物骨・焼土粒子を横断に含む。しまりや中塊。

125号土坑



1層 埋立。

2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。炭化動物骨・焼土粒子を横断に含む。しまりや中塊。

3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや中塊。

4層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを横断に含む。しまり。

5層 暗褐色土 ローム粒子を横断に含む。しまりや中塊。

126号土坑



1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや中塊。

127号土坑

第7図 土坑 (1/60)

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

125号土坑

遺構 (第7図、第4表)

[位置] 調査区西隅。

[検出状況] 16Pに切られ、15Pを切る。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸1.37m/短軸0.70m/深さ5cm。壁：約50°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-3°-E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

126号土坑

遺構 (第7図、第4表)

[位置] 調査区西隅。

[検出状況] 34Pを切り、1T-P6と重複する。西側一部は畝により攪乱される。

[構造] 平面形：方形か。規模：長軸1.02m/短軸0.74m/深さ19cm。壁：約70°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-5°-E。

[覆土] 4層(2~5層)に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

127号土坑

遺構 (第7図、第4表)

[位置] 調査区西隅。

遺構名	平面形	規模 (m)			長軸方位	覆土及び特徴	主な遺物	時期
		長軸	短軸	深さ				
121D	長方形	1.30	1.00	0.15	N-65°-W	単層/1T-P4、122D、20Pを切り、28・35・36Pと重複	遺物なし	中世以降
122D	長方形	2.20	0.97	0.25	N-63°-W	単層/121D・20Pに切られ、29Pと重複	遺物なし	中世以降
123D	長方形	1.02	0.72	0.53	N-73°-W	7層/南側の上端は攪乱	遺物なし	中世以降
124D	長方形	1.43	1.03	0.42	N-72°-W	11層/21Pを切る/東西方向に畝による攪乱	遺物なし	中世以降
125D	長方形	1.37	0.70	0.05	N-3°-E	単層/16Pに切られ、15Pを切る	遺物なし	中世以降
126D	長方形	1.02	0.74	0.19	N-5°-E	4層/34Pを切り、1T-P6と重複/西側一部は畝による攪乱	遺物なし	中世以降
127D	不整形	1.10	0.94	0.08	N-55°-E	単層/38Pに切られ、30Pと重複	遺物なし	中世以降

第4表 中世以降の土坑一覧

[検出状況] 38 Pに切れられ、30 Pと重複する。

[構造] 平面形：不整形。規模：長軸1.10 m／短軸0.94 m／深さ8 cm。壁：約70°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-55°-E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

(5) 井戸跡

8号井戸跡

遺構 (第8図)

[位置] 調査区中央からやや西側。

[検出状況] 3 Pに切れられ、33 Pと重複する。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸1.15 m／短軸1.04 m／危険を伴うため、確認面から深さ120 cm程で精査を終了した。開口部は僅かに漏斗状を呈し、約75～80°の角度で立ち上がる。東壁には深さ約50～100 cmの位置で奥行10 cm前後のピット状の掘り込みが上下2か所に確認できた。

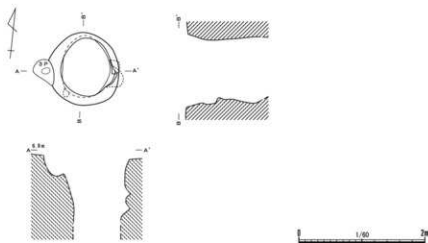
[覆土] 観察できる範囲では、上層はローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土、下層はローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む暗褐色土を基調とする。上層の堆積から人為的に埋戻しが行われたものと考えられる。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

(6) ピット (第4・5図、第5表)

本地点で検出されたピットは合計41本(1～41 P)で、すべて中世以降のピットと思われる。なお、今回は遺物の出土したピットがなかったため、ピットの基本内容のみを第5表に示すにとどめることとした。



第8図 8号井戸跡 (1/60)

遺構名	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴	主な遺物及び備考	時期
		長軸	短軸	深さ			
1 P	隅丸長方形	30	26	20	単層：ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ロームブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
2 P	隅丸方形	30	30	16	単層：ローム小ブロック・ロームブロックを多く、ローム粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
3 P	隅丸長方形	不明	37	33	ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/8Wを切る	遺物なし	中世以降
4 P	隅丸長方形	40	26	25	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
5 P	隅丸方形	33	30	29	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を含み、炭化材を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
6 P	隅丸方形	28	25	25	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/7Pを切る	遺物なし	中世以降
7 P	隅丸長方形	不明	34	44	単層：ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを多く含む暗褐色土/6Pに切られる	遺物なし	中世以降
8 P	不明	不明	不明	24	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土/北面の大部分が調査区外のため詳細不明	遺物なし	中世以降
9 P	隅丸方形	24	24	10	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
10 P	隅丸方形	30	30	14	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土/南側上端は竪により覆瓦	遺物なし	中世以降
11 P	隅丸長方形	45	35	48	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを多く含む暗褐色土/2本の重複形	遺物なし	中世以降
12 P	隅丸長方形	31	24	18	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
13 P	隅丸方形	31	31	20	単層：ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを多く含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
14 P	隅丸方形	42	41	35	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
15 P	隅丸方形	35	35	49	2層/上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を含む暗褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/125Dに切られる	遺物なし	中世以降
16 P	隅丸長方形	42	32	57	2層/上層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土。下層：ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを含む暗褐色土/125Dを切る	遺物なし	中世以降
17 P	隅丸長方形	40	28	18	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む暗褐色土/18Pを切る	遺物なし	中世以降
18 P	隅丸方形	34	32	23	2層/上層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く含む暗褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を含み、ロームブロックを多く含む黒褐色土/17Pに切られる	遺物なし	中世以降
19 P	隅丸長方形	30	27	24	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
20 P	隅丸長方形	49	40	36	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/121 Dに切られ、122 Dを切る	遺物なし	中世以降
21 P	隅丸長方形	30	20	25	2層/上層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/124Dに切られる	遺物なし	中世以降
22 P	隅丸方形	25	23	21	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土/上層は竪による覆瓦	遺物なし	中世以降
23 P	隅丸方形	37	32	25	2層/上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む黒褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/北面上端は竪により覆瓦	遺物なし	中世以降
24 P	隅丸方形	33	33	50	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/39Pと重複	遺物なし	中世以降
25 P	不定形	不明	不明	11	2層/上層：ローム粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む黄褐色土/北面上端は竪により覆瓦	遺物なし	中世以降
26 P	不定形	不明	不明	18	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/北面上端は竪により覆瓦	遺物なし	中世以降
27 P	隅丸長方形	50	37	67	2層/上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土。下層：ローム粒子を僅かに含むローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/2本の重複形	遺物なし	中世以降

第5表 中世以降のピット一覧(1)

遺構名	平面形	規模 (cm)			覆土及び特徴	主な遺物及び備考	時期
		長軸	短軸	深さ			
28 P	隅丸長方形	31	25	15	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む黒褐色土/121 Dと重複	遺物なし	中世以降
29 P	隅丸方形	39	37	78	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗黄褐色土/122Dと重複	遺物なし	中世以降
30 P	隅丸方形	50	38	39	3層/1層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む暗黄褐色土。2層：ローム粒子・ロームブロックを僅かに、ローム小ブロックを含む暗褐色土。3層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに、ロームブロックを含む暗黄褐色土/IT-P4を切り、127D、31・38 Pと重複	遺物なし	中世以降
31 P	隅丸長方形	58	38	61	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗黄褐色土/30・38Pと重複	遺物なし	中世以降
32 P	隅丸方形	23	不明	31	土層注記なし/IT-P1と重複	遺物なし	中世以降
33 P	不定形?	35	32	21	単層：ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを多く含む暗褐色土/8 Wと重複	遺物なし	中世以降
34 P	隅丸方形	34	30	19	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む黒褐色土/126Dに切られ、IT-P6と重複	遺物なし	中世以降
35 P	隅丸方形	30	28	16	単層：ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含むにふい黄褐色土/36Pを切り、121Dと重複	遺物なし	中世以降
36 P	隅丸長方形	23	20	22	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含むにふい黄褐色土/35Pに切られ、121Dと重複	遺物なし	中世以降
37 P	不定形?	25	22	40	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む黒褐色土/北側上端は縦に攪乱	遺物なし	中世以降
38 P	隅丸長方形	52	31	10	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含むにふい黄褐色土/127Dを切り、30・31 Pと重複	遺物なし	中世以降
39 P	隅丸方形	34	34	27	24Pと重複/土層注記なし	遺物なし	中世以降
40 P	隅丸方形	23	21	25	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土/土層は縦による攪乱	遺物なし	中世以降
41 P	隅丸方形	24	23	41	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む黄褐色土	遺物なし	中世以降

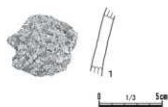
第5表 中世以降のピット一覧(2)

(7) 遺構外出土遺物(第9図1、図版3-8-1)

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時代の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の土器1点である(第9図1、図版3-8-1)。

1は深鉢形土器の胴部破片である。厚さは0.7cm。器形は全体に外傾し、無文の土器である。胎土は明赤褐色で、砂粒をやや多く、片岩・角閃石を含む。8Wからの出土で、時期は縄文時代前期後葉か。



第9図 遺構外出土遺物(1/3)

第3章 中道遺跡第74地点の調査

第1節 遺跡の概要

(1) 立地と環境

中道遺跡は、志木市柏町5丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の1kmに位置している。本遺跡は、南北方向に約300m、東西方向に約330mの広がりをもち、面積54,420㎡を有している。

遺跡を地勢的に見ると、武蔵野台地の北端部にあたり、標高は北端で約13m、南端で約14m、低地との比高差は約7mである。遺跡の現況は都市計画道路富士見・大原線(ユリノキ通り)の開通とともに各種開発が盛んに行われ、畑地は急激に減少している。

本遺跡は、これまでに97地点の調査(令和5年2月20日現在)が実施され(第10図)、旧石器時代、縄文時代、弥生時代後期～古墳時代前期、古墳時代中・後期、平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。

(2) 発掘調査の経過

確認調査は、平成25年10月11日に実施した。調査区内の南北方向に4本のトレンチ(1～4 Tr)を設定し、バックホーを使用し表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の土坑4基、中世以降の土坑5基・溝跡2本・段切状遺構等を確認した(第11図)。そのため、ただちに依頼者に調査の結果を報告し、保存対策について検討を依頼したが、保護層30cm以上を確保することは難しく、盛土保存は不可能であるという回答を得た。そのため、平成25年11月18日から、発掘調査を実施することに決定した。

以下、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第6表の発掘調査工程表に示した。

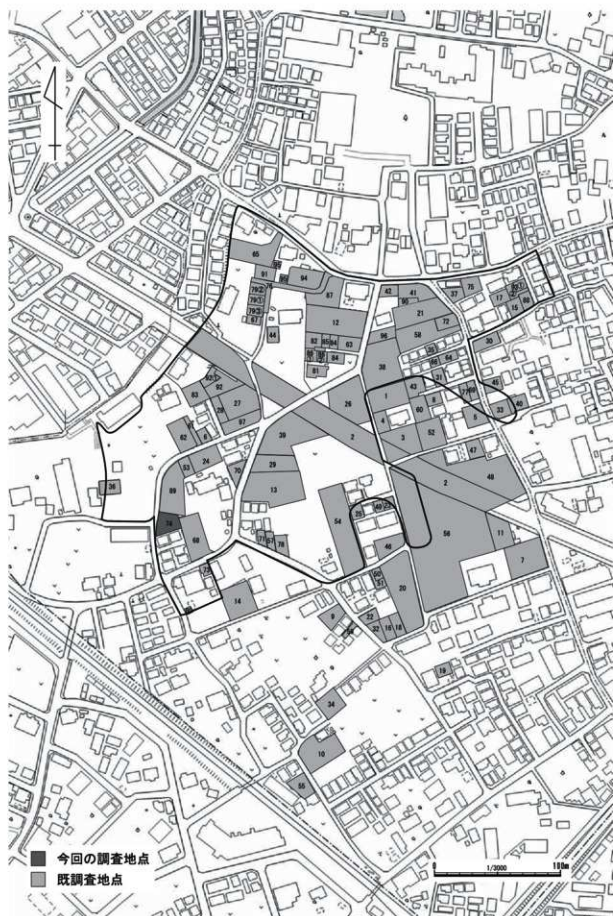
11月18日 重機による表土剥ぎ作業を開始する。

19～22日 人員導入による発掘作業を開始する。器材を現地に搬入し、調査区の整備と遺構確認作業を行った。19日には重機による表土剥ぎ作業を終了する。調査区南側の遺構検出状況の写真撮影を行う。中世以降の溝跡(25・26M)の精査を開始する。段切状遺構の覆土を把握するため、調査区中央に南北方向のセクションベルトA-A'を設定し掘削を行った(第12図)。中世以降のピットについては相当な数が見込まれたため、覆土の記録は基本的に覆土を半裁し、写真撮影、覆土チェックを行うのみとした。縄文時代のピットや他の遺構と重複するピットについては必要に応じて断面図で記録した。

25～29日 中世以降の土坑(166・167D)の精査を開始する。26日には宗岡第二中学校の生徒が職場体験学習の一環で発掘調査に参加した。166・167Dの精査を終了する。

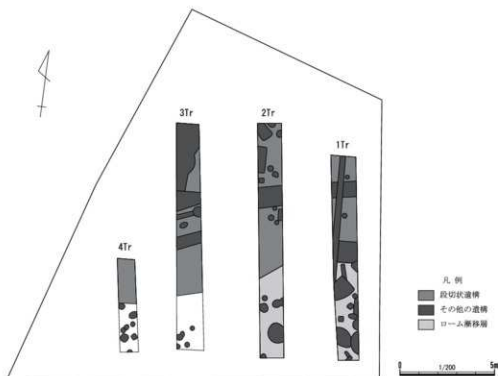
12月上旬 中世以降の土坑(168・169D)の精査を開始する。4日には志木中学校の生徒が職場体験学習の一環で発掘調査に参加した。168・169Dの精査を終了する。

12月中旬 縄文時代の土坑(172・173D)、中世以降の土坑(170・171D)の精査を開始する。



第10図 中道遺跡の調査地点 (1/3,000)

令和5年2月20日現在



第11図 確認調査時の遺構分布 (1/200)

	平成25年11月				12月						平成26年1月			
	19日	20日	25日	30日	5日	10日	15日	25日	30日	9日	10日	15日	20日	25日
表土削ぎ作業 (縄文時代)	11.19	11.19				12.12	12.13							
172D						12.11	12.16							
173D						12.12								
(中世以降)														
166D			11.29											
167D		11.27	11.28											
168D				12.3	12.4									
169D				12.3	12.4									
170D						12.9	12.11							
171D						12.9	12.11							
174D								12.24	12.25					
175D								12.24	12.25					
176D								12.24	12.25					
177D								12.25						
178D								12.25	12.26					
179D								12.26		1.8				
180D										1.6		1.9		
181D										1.6		1.9		
182D										1.7		1.9		
183D										1.7		1.9		
184D										1.30		1.16		
185D										1.30		1.16		
186D										1.30		1.14		
25M	11.19		11.25						12.20				1.9	
26M	11.20			12.4	12.13								1.9	
27M							12.18						1.9	
28M										1.30		1.37		
埋戻し作業													1.22	1.24

第6表 中道遺跡第74地点の発掘調査工程表

- 11日に調査区南側の中世以降のピット群及び段切状遺構南半部の全景を写真撮影する。12・13日には調査区北側の表土剥ぎ作業を行う。170～173 Dの精査を終了する。
- 12月下旬 中世以降の土坑（174～179 D）・溝跡（27 M）の精査を開始する。調査区中央南北セクションA-A'の南側を写真撮影、断面図で記録し、掘削する。174～178 Dの精査を終了する。
- 1月上旬 中世以降の土坑（180～186 D）の精査を開始する。調査区中央南北セクションA-A'の北半（段切状遺構）を写真撮影、断面図で記録し、掘削する。段切状遺構および中世以降の遺構の全景写真撮影を行う。なお、中世以降の溝跡（28 M）については断面形がV字であったため、当初、他時期の遺構として想定していた。そのため、中世以降の遺構全景の写真撮影後に精査を開始した。179～183 D、25～27 Mの精査を終了する。
- 1月中旬 184～186 D、28 Mの精査を終了する。
- 22日 埋戻し作業を開始する。24日に埋戻し作業を完了する。

第2節 縄文時代の遺構・遺物

(1) 概要

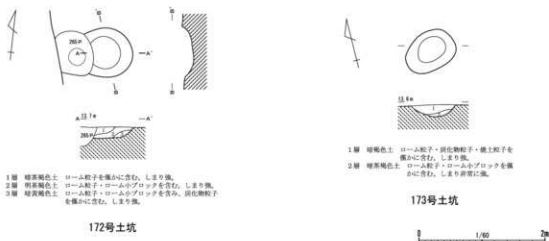
縄文時代の遺構としては、土坑2基（172・173 D）・ピット26本（18・257～271・283・284・297・298・358・377・380～382・397 P）が検出された。

(2) 土坑

172号土坑

遺 構 (第13図)

[位 置] (D-4) グリッド。



第13図 縄文時代の土坑（1/60）

〔検出状況〕 265 Pに切られる。

〔構造〕 平面形：円形。規模：長軸不明／短軸0.75m／遺構確認面からの深さ23cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-79°-E。

〔覆土〕 3層に分層される。

〔遺物〕 出土しなかった。

〔時期〕 覆土の観察から、縄文時代と思われる。

173号土坑

〔遺構〕 (第13図)

〔位置〕 (D-4) グリッド。

〔検出状況〕 73に切られ、270・284・298 Pを切る。

〔構造〕 平面形：楕円形。規模：長軸0.82m／短軸0.61m／遺構確認面からの深さ21cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-68°-E。

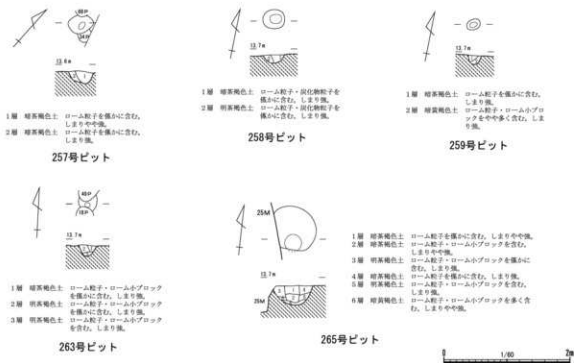
〔覆土〕 2層に分層される。

〔遺物〕 出土しなかった。

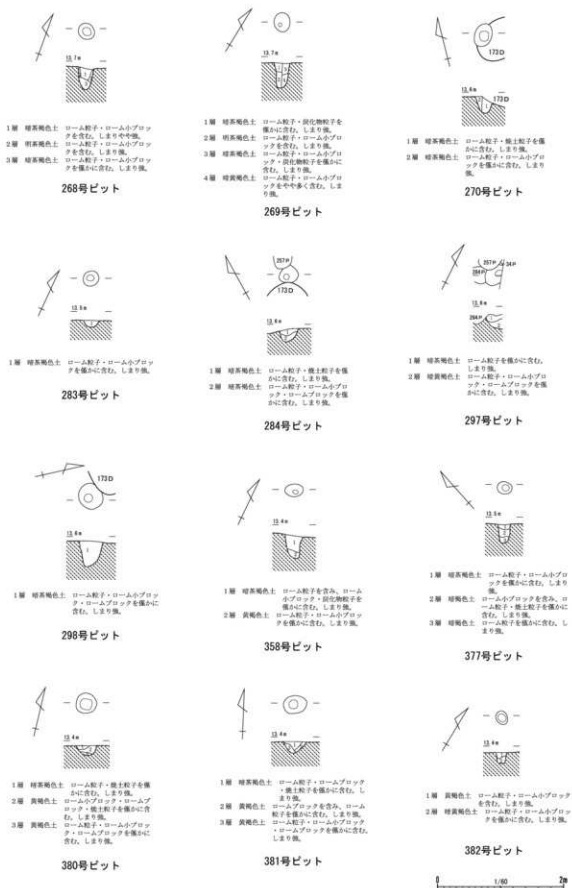
〔時期〕 覆土の観察から、縄文時代と思われる。

(4) ピット (第14・15図、第7表)

本地点で検出されたピットは合計397本で、そのうち、縄文時代のピットは26本 (18・257~271・283・284・297・298・358・377・380~382・397 P) であった。遺物が出土したピットは258 Pのみであったが、小破片のため図示できなかった。ここではピットの基本内容は第7表に示すに留めた。



第14図 縄文時代のピット1 (1/60)



第15図 縄文時代のピット2 (1/60)

遺構名	位置	平面形	規模(m)			層土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
18 P	(D-4)G	隅丸方形	30	27	26	単層：ローム粒子を僅かに含む暗茶褐色土／263Pを切る	遺物なし	縄文
257 P	(D-3・4)G	隅丸長方形	40	31	29	2層／34・68Pに切られ、284・297Pを切る	遺物なし	縄文
258 P	(E-4)G	隅丸長方形	41	30	15	2層	縄文土器1点(小破片のため図示しなかった)	縄文
259 P	(D-4)G	隅丸長方形	24	15	17	2層	遺物なし	縄文
260 P	(D-4)G	隅丸方形	22	18	12	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗茶褐色土	遺物なし	縄文
261 P	(D-4)G	隅丸長方形	26	21	17	単層：ローム粒子を僅かに含む暗茶褐色土	遺物なし	縄文
262 P	(B-5)G	隅丸方形か	26	不明	37	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土／149・154Pに切られる	遺物なし	縄文
263 P	(D-4)G	不明	不明	32	14	3層／18・49Pに切られる	遺物なし	縄文
264 P	(D-3)G	隅丸長方形	27	14	30	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土／71Pに切られる	遺物なし	縄文
265 P	(D-4)G	隅丸長方形か	不明	68	32	6層／25Mに切られ、172Dを切る	遺物なし	縄文
266 P	(D-4)G	不明	不明	30	31	単層：ローム粒子を僅かに含む暗茶褐色土／63・64・66・67Pに切られ、271Pと重複	遺物なし	縄文
267 P	(D-4)G	隅丸長方形	38	31	44	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土／169D、79・103Pに切られる	遺物なし	縄文
268 P	(D-4)G	隅丸方形	28	22	37	3層	遺物なし	縄文
269 P	(C-4)G	隅丸方形	36	31	41	4層	遺物なし	縄文
270 P	(D-4)G	隅丸方形	38	31	29	2層／173Dに切られる	遺物なし	縄文
271 P	(D-4)G	隅丸方形	43	43	46	単層：ローム粒子を僅かに含む暗茶褐色土／266Pと重複	遺物なし	縄文
283 P	(D-4)G	隅丸方形	26	24	10	単層	遺物なし	縄文
284 P	(D-4)G	隅丸方形	35	30	16	2層／173D、257Pに切られ、297Pを切る	遺物なし	縄文
297 P	(D-4)G	不明	不明	不明	24	2層／34・257・284Pに切られる	遺物なし	縄文
298 P	(D-4)G	隅丸方形	42	42	39	単層／173Dに切られる	遺物なし	縄文
358 P	(C-2)G	隅丸長方形	30	20	38	2層	遺物なし	縄文
377 P	(D-3)G	隅丸方形	24	20	31	3層	遺物なし	縄文
380 P	(C-2)G	隅丸方形	34	32	18	3層	遺物なし	縄文
381 P	(C-2)G	隅丸長方形	37	26	20	3層	遺物なし	縄文
382 P	(C-2)G	隅丸長方形	23	20	20	2層	遺物なし	縄文
397 P	(C-3)G	隅丸長方形	30	20	27	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗茶褐色土	遺物なし	縄文

第7表 縄文時代のピット一覧

第3節 中世以降の遺構・遺物

(1) 概要

中世以降の遺構としては、段切状遺構1か所、土坑19基(166～171・174～186D)・溝跡4本(25～28M)・ピット371本(1～17・19～256・272～282・285～296・299～357・359～376・378・379・383～396P)が検出された。

(2) 段切状遺構

遺構(第12図)

[位置] (A-4、B・C-1～4、D-2～4) グリッド。

[構造] 遺構の広がり：(A～D-4)グリッド、(C-3、D-3)グリッドで、南から北へ下がる段差が認められた(第12図、セクションA-A')。この段差を境に北側に平場面が形成されている。さらに、調査区北側((B・C-1・2)グリッド)の178・180D、27M北端、334P付近から、北方向へ下がる傾斜が認められた。なお、段の南側にはローム漸移層が残っており、土地造成の痕跡を確認

することはできなかった。深さ：平場面の標高は13.30m前後であり、南側の漸移層残存面との段差は35cm程度である。また、調査区北端の傾斜地では、最も標高が低い箇所では12.94mである。面の状況：平場面にローム掘削時の工具痕が部分的に見られた。

[覆 土] 第12図のセクションA-A'では10層（2～11層）に分層される。平場面中央付近に6～11層が平場面に堆積する。10層は28Mを被覆し、8・9・11層は平場面直上の堆積土である。10・11層が堆積後、179D、27Mが構築される。179D、27Mが埋没後、7層が堆積し、その上面に5層の硬化面が構築される。平場面北側では7層の堆積後、1・2層が堆積している。

[遺 物] 陶器2点、土器1点、瓦1点が出土した。

[時 期] 中世（14～15世紀）。

[所 見] 本遺構の段差部は（B・C-4）グリッドでは東西方向に延び、（C-3）グリッドで湾曲し南北方向になる。この湾曲の方向は27Mと類似している。また、中世以降のピットとの位置関係では、平場面内部においてはピットの数が比較的少なく、段差部付近に東西方向に密集していることが言える。

遺 物（図版10-1、第8表）

[陶器・土器]（図版10-1-1～3、第8表）

1・2は陶器で、1は常滑の大甕、2は瀬戸・美濃系の灰釉皿である。

3は土器で、皿である。

[瓦]（図版10-1-4）

4は瓦である。長さ5.1cm・幅3.8cm・厚さ1.6cm・重さ35g。胎土には砂粒・金雲母片を僅かに含む。色調は灰白色である。時期は近世。

（2）土 坑

166号土坑

遺 構（第16図、第9表）

[位 置]（D-4）グリッド。

[検出状況] 61Pと重複する。

[構 造] 平面形：円形。規模：長軸0.94m/短軸0.88m/遺構確認面からの深さ11cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-72°-E。

[覆 土] 単層。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

図版番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時期
図版10-1-1	段切	陶器	甕	厚1.3	大甕/外面に鉄軸/胎土：色調は褐灰色、白色砂粒を多く含む/体部破片	常滑	中世 (14c)
図版10-1-2	段切	陶器	皿	厚0.5	内外面に灰軸/胎土：色調は灰黄色、精練されている/口縁部小破片	瀬戸・美濃系	中世 (14c)
図版10-1-3	段切	土器	皿	高11.0	かわらけ/ロクロ成形/平底/底部に回転系切り痕あり/胎土：色調はにぶい褐色、赤褐色粒子を含み、砂粒を僅かに含む/底部小破片	在地系	中世 (14～15c)

第8表 段切状遺構出土陶器・土器一覽

167号土坑

遺構 (第16図、第9表)

[位置] (D-3) グリッド。

[検出状況] 25M、54～57・81Pと重複する。

[構造] 平面形：不整長方形。規模：長軸1.36m以上／短軸0.97m／遺構確認面からの深さ14cm。

壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-56°-E。

[覆土] 2層に分層された。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

168号土坑

遺構 (第16図、第9表)

[位置] (C-3) グリッド。

[検出状況] 東壁の一部は畝による攪乱を受ける。128Pを切り、127Pと重複する。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸0.96m／短軸0.92m／遺構確認面からの深さ14cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-7°-W。

[覆土] 単層。

[遺物] 土器1点が出土した。

[時期] 中世(14～15世紀)。

遺物 (図版10-2-1、第10表)

[土器] (図版10-2-1、第10表)

1は土器で皿である。

169号土坑

遺構 (第16図、第9表)

[位置] (D-3・4) グリッド。

[検出状況] 86Pに切られ、87・93・103・267Pを切り、25M、32・33・44・47・77～80・83・85・90～92・100～102・104・105・108・109・121・122Pと重複する。

[構造] 平面形：不整楕円形。規模：長軸3.35m／短軸2.37m／遺構確認面からの深さ33cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-23°-E。

[覆土] 6層(2～7層)に分層される。

[遺物] 土器1点が出土した。

[時期] 中世(14～15世紀)。

遺物 (第20図、図版10-2、第10表)

[土器] (第20図1、図版10-2-1、第10表)

1は土器皿である。

170号土坑

遺構 (第16図、第9表)

[位置] (C-4・5) グリッド。

[検出状況] 171 D、251 Pを切り、231 Pと重複する。南側は調査区外。

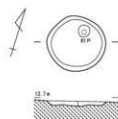
[構造] 平面形：長方形か。規模：長軸0.86m以上/短軸1.02m/遺構確認面からの深さ35cm。

壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-18°-W。

[覆土] 3層に分層される。

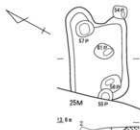
[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。



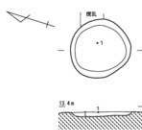
1層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・炭化材を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を稀かに含む。しまり中。

166号土坑



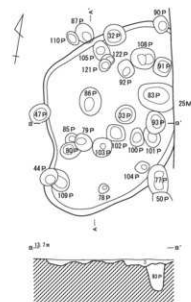
1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
2層 ロームブロック。

167号土坑



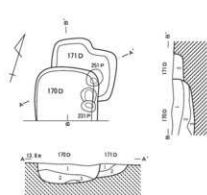
1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を稀かに含む。しまり中。

168号土坑



1層 炭塵土。
2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを稀かに含む。しまりやや強。
3層 細粒暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを稀かに含む。しまりやや中強。
4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを稀かに含む。しまり中。
5層 粗粒暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを稀かに含む。しまり中。
6層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
7層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを稀かに含む。しまり強。

169号土坑



170D
1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを稀かに含む。しまり強。
2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
171D
1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、焼土粒子を稀かに含む。しまりやや強。

170・171号土坑

0 1/80 2m

第16図 中世以降の土坑1 (1/60)

171号土坑

遺構 (第16図、第9表)

位置 (C-4・5) グリッド。

検出状況 170 Dに切られ、251 Pを切る。

構造 平面形：不整形。規模：長軸1.03m/短軸0.99m/遺構確認面からの深さ23cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-76°-E。

覆土 2層に分層される。

遺物 出土しなかった。

時期 覆土の観察から、中世以降と思われる。

174号土坑

遺構 (第17図、第9表)

位置 (D-2) グリッド。

検出状況 176 D、25 Mを切る。北側は調査区外。

構造 平面形：長方形。規模：長軸1.20m以上/短軸0.89m以上/遺構確認面からの深さ38cm。壁：約45~80°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-66°-E。

覆土 17層(2~18層)に分層される。

遺物 出土しなかった。

時期 覆土の観察から、中世以降と思われる。

175号土坑

遺構 (第17図、第9表)

位置 (D-2) グリッド。

検出状況 176 D、25・28 Mを切る。東側は調査区外。

構造 平面形：不整形長方形。規模：長軸2.92m/短軸1.57m以上/遺構確認面からの深さ45cm。壁：段差状の起伏をもって立ち上がる。長軸方位：N-21°-W。

覆土 16層(2~17層)に分層される。

遺物 出土しなかった。

時期 覆土の観察から、中世以降と思われる。

176号土坑

遺構 (第17図、第9表)

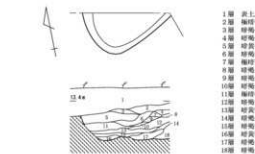
位置 (D-2) グリッド。

検出状況 174・175 Dに切られる。東側の大部分は調査区外。

構造 平面形：不明。規模：長軸0.44m以上/短軸0.40m以上/遺構確認面からの深さ11cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：不明。

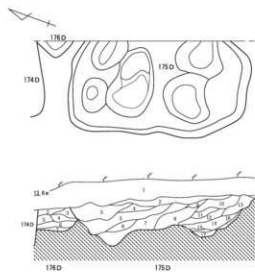
覆土 6層(2~7層)に分層される。

遺物 出土しなかった。



174号土坑

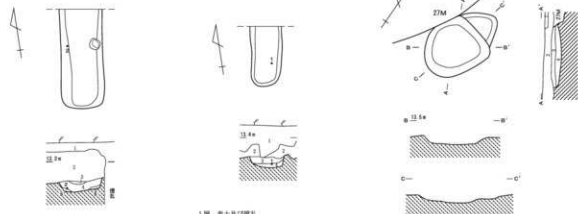
- 1層 表土。
- 2層 雑草層。ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり肌。
- 3層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり肌。
- 4層 雑草層。ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり肌。
- 5層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり肌や中肌。
- 6層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロックを多く含む。しまり肌。
- 7層 雑草層。ローム粒子を含む。しまり肌。
- 8層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを多く含む。しまり肌。
- 9層 雑草層。ローム小ブロックを含む。ローム粒子を多く含む。しまり肌。
- 10層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり肌や中肌。
- 11層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり肌。
- 12層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを多く含む。しまり肌。
- 13層 雑草層。ローム粒子を多く、ローム小ブロックを多く含む。しまり肌や中肌。
- 14層 雑草層。ローム粒子を含む。しまり肌。
- 15層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり肌や中肌。
- 16層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり肌。
- 17層 雑草層。ローム粒子を多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり肌や中肌。
- 18層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり肌。



175・176号土坑

- 175D
- 1層 表土。
- 2層 雑草層。ローム粒子を含む。ローム小ブロックを多く含む。しまり肌。
- 3層 雑草層。ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり肌。
- 4層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり肌。
- 5層 雑草層。ローム粒子を含む。ローム小ブロック・雑土粒子を多く含む。しまり肌や中肌。
- 6層 雑草層。ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり肌や中肌。
- 7層 雑草層。ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり肌。
- 8層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり肌。
- 9層 雑草層。ローム粒子を含む。ローム小ブロック・雑土粒子を多く含む。しまり肌。
- 10層 雑草層。ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまり肌。
- 11層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり肌。
- 12層 雑草層。ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。ロームブロックを多く含む。しまり肌。
- 13層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまり肌。
- 14層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロックを多く含む。しまり肌。
- 15層 雑草層。ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり肌や中肌。
- 16層 雑草層。ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり肌。
- 17層 雑草層。ローム粒子を多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり肌や中肌。

- 176D
- 1層 表土。
- 2層 雑草層。ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり肌。
- 3層 雑草層。ローム粒子を多く、ローム小ブロックを多く含む。しまり肌。
- 4層 雑草層。ローム粒子を多く、ローム小ブロックを多く含む。しまり肌。
- 5層 雑草層。ローム粒子を多く含む。しまり肌。
- 6層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまり肌。
- 7層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまり肌。



- 1層 赤土及び雑土。
- 2層 段切状遺構層上。
- 3層 雑草層。ローム粒子を多く含む。しまり肌。
- 4層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロックを多く含む。しまり肌。
- 5層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり肌。

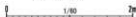
177号土坑

- 1層 赤土及び雑土。
- 2層 段切状遺構層上。
- 3層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子和子を多く含む。しまり肌や中肌。
- 4層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを多く含む。しまり肌や中肌。

178号土坑

- 1層 雑土。
- 2層 段切状遺構層上。
- 3層 雑草層。ローム粒子を含む。ローム小ブロックを多く含む。しまり肌。
- 4層 雑草層。ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまり肌。

179号土坑



第17図 中世以降の土坑2 (1/60)

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

177号土坑

遺 構 (第17図、第9表)

[位 置] (C-1・2) グリッド。

[検出状況] 単独で検出。北側は調査区外に伸びる。

[構 造] 平面形：長方形か。規模：長軸1.58m以上／短軸0.74m／遺構確認面からの深さ36cm。

壁：急斜に立ち上がる。長軸方位：N-9°-E。

[覆 土] 3層（3-5層）に分層され、段切状遺構覆土に被覆される。

[遺 物] 陶器1点、石製品（砥石）1点が出土した。

[時 期] 段切状遺構覆土下層に被覆されることから、中世の可能性はある。

遺 物 (第20図、図版10-2、第10表)

[陶 器] (図版10-2-1、第10表)

1は陶器で、瀬戸・美濃系の徳利である。

[石 製 品] (第20図1、図版10-2-2)

2は凝灰岩製の砥石である。長さ8.1cm・幅3.2cm・厚さ2.3cm・重さ83.5g。上下両端を欠損する。使用面は表裏面の2面で、使用面には線状擦痕が残る。左右側面には成形時の加工痕が認められる。

178号土坑

遺 構 (第17図、第9表)

[位 置] (C-2) グリッド。

[検出状況] 北側は調査区外に伸びる。

[構 造] 平面形：長方形か。規模：長軸0.95m以上／短軸0.52m／遺構確認面からの深さ16cm。

壁：80°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-9°-E。

[覆 土] 2層（2-3層）に分層され、段切状遺構覆土に被覆される。

[遺 物] 土器1点が出土した。

[時 期] 中世（14～15世紀）。

遺 物 (図版10-2、第10表)

[土 器] (図版10-2-1、第10表)

1は土器で、皿である。

179号土坑

遺 構 (第17図、第9表)

[位 置] (C-3) グリッド。

[検出状況] 西側の一部を27Mに切られる。

[構 造] 平面形：不整形で、北側に段差がある。規模：長軸1.33m／短軸0.88m以上／遺構確認面からの深さ12cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-15°-E。

[覆 土] 2層（3-4層）に分層され、段切状遺構覆土に被覆される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

180号土坑

遺構 (第18図、第9表)

[位置] (B・C-2) グリッド。

[検出状況] 348 Pに切られる。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸1.67m/短軸1.11m/遺構確認面からの深さ44cm。壁：丸みをもって立ち上がる。長軸方位：N-18°-W。

[覆土] 12層(3~14層)に分層され、段切状遺構覆土に被覆される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

181号土坑

遺構 (第18図、第9表)

[位置] (B-3) グリッド。

[検出状況] 28Mを切り、26M、392・393Pと重複する。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸4.52m/短軸0.83m以上/遺構確認面からの深さ32cm。壁：丸みをもって立ち上がる。長軸方位：N-S。

[覆土] セクションA-A'では3層、セクションB-B'では4層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

182号土坑

遺構 (第18図、第9表)

[位置] (B-2) グリッド。

[検出状況] 東側は攪乱に切られる。26M、355・367Pと重複。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸1.92m以上/短軸0.94m以上/遺構確認面からの深さ21cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-2°-W。

[覆土] 3層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

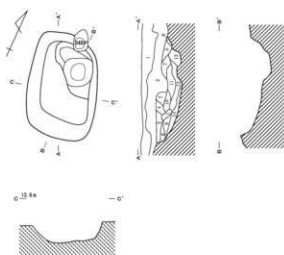
183号土坑

遺構 (第18図、第9表)

[位置] (B-2) グリッド。

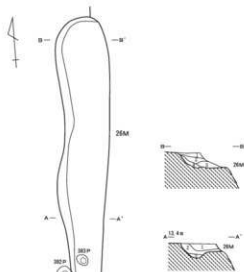
[検出状況] 西側を26Mと重複し、東側の一部を竅により攪乱される。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸0.95m/短軸0.64m以上/遺構確認面からの深さ22cm。壁：緩



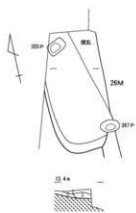
- 1層 表土。
 2層 段切状遺構層上。
 3層 暗褐色土 ローム粒子・黒褐色土ブロックを含み、ローム小ブロックを塊状に含む。しまりや中強。
 4層 暗褐色土 ローム粒子を多く、黒褐色土ブロック・ローム小ブロックを塊状に含む。しまりや中強。
 5層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・黒色土粒子を塊状に含む。しまり弱。
 6層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中強。
 7層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・黒褐色土ブロックを含む。ロームブロックを塊状に含む。しまりや中強。
 8層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロックを塊状に含む。しまりや中強。
 9層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロック・黒色土小ブロックを含む。しまり非常に強。
 10層 黄褐色土 ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり非常に強。
 11層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・黒褐色土ブロックを含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しまりや中強。
 12層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しまり弱。
 13層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しまり弱。
 14層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや中強。

180号土坑



- A-A'
 1層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しまり弱。
 2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
 3層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・ロームブロックを塊状に含む。しまり弱。
 B-B'
 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。
 2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを塊状に含む。しまり中。
 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを塊状に含む。しまり中。
 4層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや中強。

181号土坑



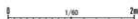
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを塊状に含む。しまりや中強。
 2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり弱。
 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロックを塊状に含む。しまり弱。

182号土坑



- 1層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・黒色土粒子を塊状に含む。しまり弱。
 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。
 3層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・ロームブロックを塊状に含む。しまり弱。
 4層 黄褐色土 ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中強。
 5層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
 6層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。

183号土坑



第18図 中世以降の土坑3 (1/60)

やかに立ち上がる。長軸方位：N-S。

[覆 土] 6層に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

184号土坑

遺 構 (第19図、第9表)

[位 置] (C・D-2・3) グリッド。

[検出状況] 25・28Mに切られ、185Dを切る。

[構 造] 平面形：溝状。規模：長軸1.93m以上/短軸0.46m以上/遺構確認面からの深さ26cm。

壁：丸みをもって立ち上がる。長軸方位：N-35°-E。

[覆 土] セクションA-A'では3層、セクションB-B'では2層に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

185号土坑

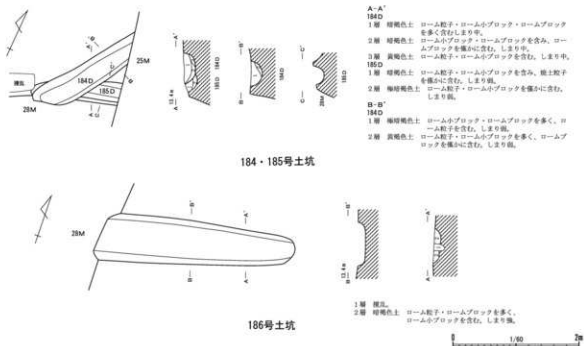
遺 構 (第19図、第9表)

[位 置] (C・D-2) グリッド。

[検出状況] 184D、25・28Mに切られる。西端部の一部に攪乱を受ける。

[構 造] 平面形：溝状。規模：長軸1.44m以上/短軸0.31m以上/遺構確認面からの深さ26cm。

壁：丸みをもって立ち上がる。長軸方位：N-70°-E。



第19図 中世以降の土坑4 (1/50)

[覆 土] 2層に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

186号土坑

[遺 構] (第19図、第9表)

[位 置] (B・C-3) グリッド。

[検出状況] 336 Pに切られ、28Mを切り、26Mと重複する。

[構 造] 平面形：溝状。規模：長軸3.18m以上/短軸0.79m/遺構確認面からの深さ35cm。壁：丸みをもって立ち上がる。長軸方位：N-76°-E。

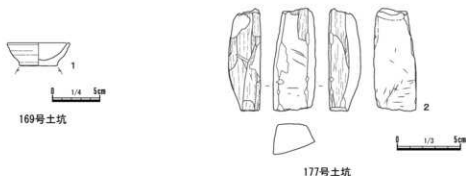
[覆 土] 単層(2層)。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

遺構名	位置	平面形	規模 (m)			長軸方位	覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ				
166D	(D-4)G	円形	0.94	0.88	0.11	N-72°-E	単層/61Pと重複	遺物なし	中世以降
167D	(D-3)G	不整形長方形	1.36以上	0.97	0.14	N-56°-E	2層/25M、54~57・81Pと重複	遺物なし	中世以降
168D	(C-3)G	円形	0.96	0.92	0.14	N-7°-W	単層/128Pを切り、127Pと重複し、東側の一部を畝により覆凡される	土器1点(皿)	中世 (14~15c)
169D	(D-3・4)G	不整形円形	3.35	2.37	0.33	N-23°-E	6層(2~7層)/86Pに切られ、87・93・103・267Pを切り、25M、32・33・44・47・77~80・83・85・90~92・100~102・104・105・108・109・121・122Pと重複	土器1点(皿)	中世 (14~15c)
170D	(C-4・5)G	長方形か	0.86以上	1.02	0.35	N-18°-W	3層/171D、251Pを切り、231Pと重複/南側は調査区外	遺物なし	中世以降
171D	(C-4・5)G	不整形長方形	1.03	0.99	0.23	N-76°-E	2層/170Dに切られ、251Pを切る	遺物なし	中世以降
174D	(D-2)G	長方形か	1.20以上	0.89以上	0.38	N-66°-E	17層(2~18層)/176D、25Mを切る/北側は調査区外	遺物なし	中世以降
175D	(D-2)G	不整形長方形	2.92	1.57以上	0.45	N-21°-W	16層(2~17層)/176D、25・28Mを切る/東側は調査区外	遺物なし	中世以降
176D	(D-2)G	不明	0.44以上	0.40以上	0.11	不明	6層(2~7層)/174・175Dに切られる/東側の大部分は調査区外	遺物なし	中世以降
177D	(C-1・2)G	長方形か	1.58以上	0.74	0.36	N-9°-E	3層(3~5層)/北側は調査区外	陶器1点(徳利)・石製品1点(砥石)	中世か
178D	(C-2)G	長方形か	0.95以上	0.52	0.16	N-9°-E	2層(2・3層)/北側は調査区外	土器1点(皿)	中世 (14~15c)
179D	(C-3)G	不整形長方形	1.33	0.88以上	0.12	N-15°-E	2層(3・4層)/北側に段差がある/西側の一部を27Mに切られる	遺物なし	中世以降
180D	(B・C-2)G	長方形	1.67	1.11	0.44	N-18°-W	12層(3~14層)/348Pに切られる	遺物なし	中世以降
181D	(B-3)G	長方形	4.52	0.83以上	0.32	N-S	A断面3層/B断面4層/28Mを切り、26M、392・393Pと重複	遺物なし	中世以降
182D	(B-2)G	長方形か	1.92以上	0.94以上	0.21	N-2°-W	3層/東側を覆凡に切られ、26M・355・367Pと重複	遺物なし	中世以降
183D	(B-2)G	円形	0.95	0.64以上	0.22	N-S	6層/西側を26Mと重複し、東側の一部を畝により覆凡される	遺物なし	中世以降
184D	(C・D-2・3)G	溝状	1.93以上	0.46以上	0.26	N-35°-E	A断面9層/B断面2層/25・28Mに切られ、185Dを切る	遺物なし	中世以降
185D	(C・D-2)G	溝状	1.44以上	0.31以上	0.26	N-70°-E	2層/184D、25・28Mに切られる	遺物なし	中世以降
186D	(B・C-3)G	溝状	3.18以上	0.79	0.35	N-76°-E	単層/336Pに切られ、28Mを切り、26Mと重複	遺物なし	中世以降

第9表 中世以降の土坑一覧



第20図 中世以降の土坑出土遺物 (1/4・1/3)

検出番号 図版番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時期
図版 10-2-1	168D	土器	皿	高1.2	かわらけ/ロクロ成形/平底/底部に回転糸切り痕あり/胎土:色調は褐色,赤褐色粒子を多く含み,砂粒・雲母片を含む/底部小破片	在地系	中世 (14~15c)
第20図1 図版 10-2-1	169D	土器	皿	高2.5 口6.5 底4.0	かわらけ/ロクロ成形/平底/底部に回転糸切り痕あり/口唇部にタール付着あり,灯明皿として使用か/胎土:色調は褐色,赤褐色粒子・雲母片を僅かに含む/遺存度:70%	在地系	中世 (14~15c)
図版 10-2-1	177D	陶器	徳利	厚0.5	内外面に灰釉/外面に鉄絵で名入れ/胎土:色調は褐灰色/体部小破片	瀬戸・美濃系	近世 (19c)
図版 10-2-1	178D	土器	皿	厚0.5	かわらけ/ロクロ成形/胎土:色調は褐色,砂粒・赤褐色粒子・雲母片を含む/口縁部小破片	在地系	中世 (14~15c)

第10表 中世以降の土坑出土陶器・土器一覧

(3) 溝跡

25号溝跡

遺構 (第21図)

[位置] (D-2~4) グリッド。

[検出状況] 174・175 Dに切れ、184・185D、28 M、265 Pを切り、167・169 D、19~21・24~27・55・83 Pと重複する。北側、南側は調査区外に延びる。

[構造] 規模:検出長13.94m/検出最大幅0.52m/下端0.37~0.23m/遺構確認面からの深さ36~53cm。断面形:箱形。壁:東側は部分的に小さな段を有し、65~80°程の角度で立ち上がる。走行方位:N-12°-W。その他:南端部底面の標高値は13.17m、北端部底面の標高値は12.68mであり、南から北へ傾斜している。標高差は49cmである。

[覆土] 4層(2~5層)に分層される。段切状遺構覆土を切る。

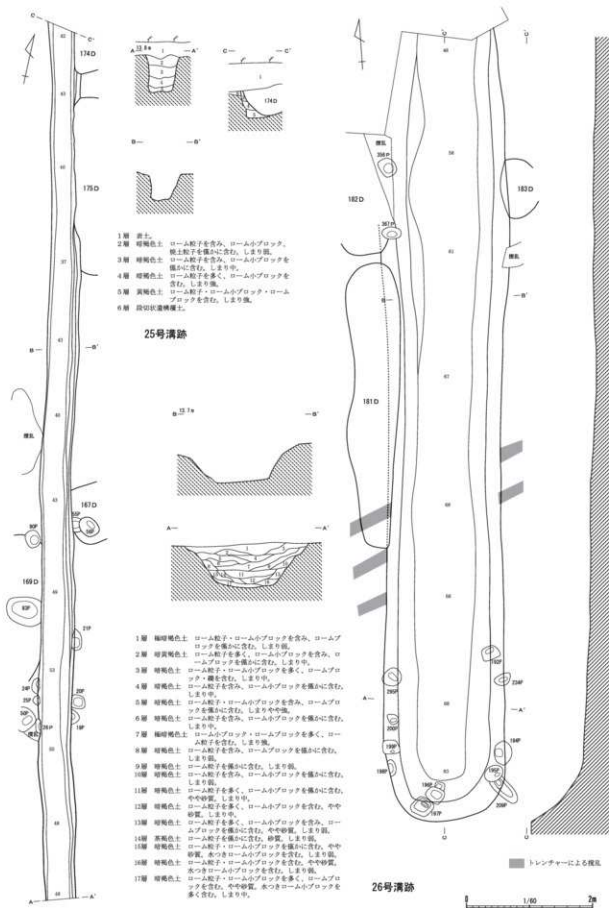
[遺物] 磁器1点、土器1点が出土した。

[時期] 近世(18世紀後半)。

遺物 (図版10-3、第11表)

[磁器・土器] (図版10-3-1・2、第11表)

1は磁器で、肥前系の碗である。2は土器で、焙烙である。



第21図 25・26号清跡 (1/60)

26号溝跡

遺 構 (第21図)**[位 置]** (B-2~4) グリッド。**[検出状況]** 28M、15・16Pを切り、181~183・186D、27M、192・194~200・209・234・295・356・367Pと重複する。北側は調査区外に延びる。**[構 造]** 規模：検出長12.59m/検出最大幅2.06m/下端0.73~1.14m/遺構確認面からの深さ48~83cm。断面形：逆台形。壁：55~60°程の角度で立ち上がる。走行方位：N-4°-E。**[覆 土]** 17層に分層される。7~10層と11・13~15層の層境は水平気味である。11層以下は砂質を帯び、15~17層中には水つきと思われるローム小ブロックが観察された。**[遺 物]** 陶器1点、石製品(板碑)1点が出土した。**[時 期]** 中世(14世紀)。**遺 物** (図版10-3、第11表)**[陶 器]** (図版10-3-1、第11表)

1は陶器で、常滑甕である。

[石 製 品] (図版10-3-2)

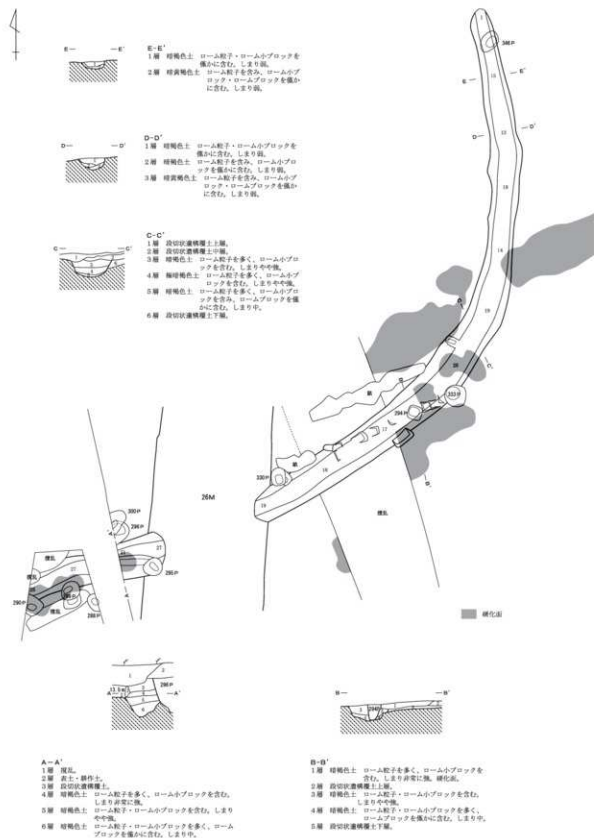
2は板碑である。長さ12.0cm・幅9.3cm・厚さ1.0cm・重さ152g。

27号溝跡

遺 構 (第22図)**[位 置]** (A-4、B-3・4、C-2~4) グリッド。**[検出状況]** 湾曲する溝跡である。294・296・333Pに切れ、179D、28M、290Pを切り、26M、289・295・330・346Pと重複する。畝による攪乱を一部受ける。西側は調査区外に延びる。北端部は浅くなり、消失する。**[構 造]** 規模：検出長13.6m/検出最大幅0.63m/下端0.34~0.16m/遺構確認面からの深さ1~27cm。断面形：概ね碗状を呈する。壁：60~85°で急斜に立ち上がる。走行方位：西側((A-4、B-3・4)グリッド)ではN-68°-Eであり、東西方向に走行する。(C-3)グリッド付近で湾曲し、(C-2)グリッドではN-12°-Wとなり、南北方向に走行する。その他：底面には構築時のものと思われる工具痕が認められた。**[覆 土]** ローム粒子、ローム小ブロックを含む暗褐色~暗黄褐色土を主体とする。セクションB-B'・C-C'の観察から、段切状遺構底面直上の覆土を切って27Mが構築され、27M埋没後に再び段切状遺構の覆土に被覆、および硬化面が直上に構築されている。**[遺 物]** 出土しなかった。**[時 期]** 中世以降。

28号溝跡

遺 構 (第23図)**[位 置]** (B-3・4、C-3、D-2・3) グリッド。**[検出状況]** 175・181・186D、25~27M、379・387・391Pに切れ、184・185D、383・388・



第22図 27号溝跡 (1/60)

396 Pを切り、389・390・392・393 Pと重複する。西側、東側は調査区外に延びる。

[構 造] 規模：検出長13.58m/検出最大幅1.46m/下端0.29～0.09m/遺構確認面からの深さ51～78cm。断面形：「V」字形。壁：50～70°で立ち上がる。走行方位：N-67°-E。その他：底面には構築時のものと思われる工具痕が認められた。

[覆 土] 壁際～下層にかけてはローム粒子を含む茶褐色・暗褐色・黄褐色土が主体的である。(セクションA-A'の11・13・14層、セクションB-B'の8～13層、セクションC-C'の16～20層、セクションD-D'の10～13層)。中～上層は、黒褐色・極暗褐色土が主体で、セクションB-B'の2層、セクションC-C'の12層、セクションD-D'の8層はロームブロックを多く含む覆土が堆積している。また、セクションC-C'より、28M埋没後、上面に硬化面(4層)が形成され、段切状遺構覆土(2・3層)が被覆している。

[遺 物] 磁器が1点、陶器1点が出土した。

[時 期] 中世。

遺 物 (図版10-3、第11表)

陶磁器 (図版10-3-1・2、第11表)

1は磁器で肥前系の皿である。2は陶器で常滑甕である。

図版番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時期
図版10-3-1	25M	磁器	碗	厚0.2	小碗/内外面に透明釉/色絵/外面に草花文/口縁部小破片	肥前系	近世 (18c後半)
図版10-3-2	25M	土器	焙烙	厚1.1	胎土：色調は灰白色、砂粒を含み、小礫を僅かに含む/体部破片	在地系	不明
図版10-3-1	26M	陶器	甕	厚1.2	大甕/内外面に灰釉/胎土：色調は灰白色、砂粒・小礫を含む/体部小破片	常滑	中世 (14c)
図版10-3-1	28M	磁器	皿	厚0.5	染付/内外面に草花文/高台あり/体部下平～底部小破片	肥前系	近代
図版10-3-2	28M	陶器	甕	厚0.9	大甕/胎土：色調は濃い黄褐色、砂粒を多く含む/体部小破片	常滑	中世 (詳細不明)

第11表 溝跡出土陶磁器・土器一覧

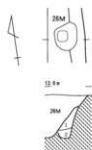
(4) ピット (第24・25図、図版11-1、第12表)

本地点で検出されたピットは合計397本で、そのうち、中世以降のピットは371本(1～256・272～282・285～296・299～357・359～376・378・379・383～396 P)であった。

ピットの分布については、(A～D-4、C・D-3)グリッドで東西方向にピットが帯状に集中している。また、(C-2・3)グリッドでは南北方向にピットがまとまって分布する。調査区南端部においては、分布状況はまばらであり、上記ほどの集中域を形成してはいない。調査区北端～西側中央((B-1～3)グリッド)や、調査区北東側((D-2)グリッド、(D-3)グリッド北側)ではピットはほとんど検出されなかった。

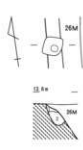
なお、30～33・49 Pについては、遺構検出時の段階から他の遺構を切っていることが確認でき、ピット中心間の距離が1.4～1.5mでほぼ等間隔であることから、ピット列状になる可能性がある。

ここでは、ピットから出土した遺物(第25図、図版11-1)を記述するに留め、ピットの基本内容は第12表に示した。



- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり肌。
2層 黄褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり肌。

15号ピット



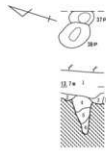
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり肌。
2層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり肌。

16号ピット



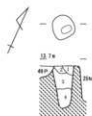
- 1層 黄土。
2層 暗褐色土 ローム粒子・黄土粒子を僅かに含む。しまり肌。段状遺構層上。
3層 暗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。しまり肌。

34号ピット



- 1層 黄土。
2層 暗褐色土 ローム粒子・黄土粒子を僅かに含む。しまり肌。空層あり。段状遺構層上。
3層 暗褐色土 ローム粒子を含み、しまり肌。段状遺構層上。
4層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり肌。
5層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり肌。
6層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり肌。

37号ピット



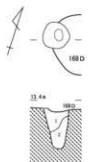
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり肌。
2層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり肌。
3層 暗黄褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり肌。
4層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり肌。

50号ピット



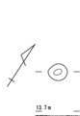
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・黄土粒子を僅かに含む。しまり肌。
2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり肌。
3層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり肌。
4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり肌。

86号ピット



- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり肌。
2層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり肌。

127号ピット



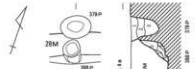
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり肌。

201号ピット



- 1層 黄土及び覆土。
2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり肌や中肌。
3層 暗褐色土 ローム粒子・黄土粒子を僅かに含む。しまり肌。
4層 暗黄褐色土 ローム粒子を含む。しまり肌。
5層 ロームブロック。
6層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり肌。
段状遺構層
7層 暗褐色土 ローム粒子・黄土粒子を僅かに含む。しまり肌。空層あり。
8層 暗褐色土 ローム粒子を含む。しまり肌。
9層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり肌。

296・300号ピット



- 379P
1層 暗褐色土 ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり肌。
2層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり肌。
3層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり肌。
380P
1層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり肌や中肌。
2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり肌。
3層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり肌や中肌。
4層 暗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。しまり肌や中肌。

379・388号ピット

第24図 中世以降のピット (1/60)

第3章 中道遺跡第74地点の調査

遺構名	位置	平面形	規模(m)			覆土及び特徴等	主な遺物	時期	
			長軸	短軸	深さ				
1 P	(A-5)C	隅丸長方形か	不明	22	25	2層：暗茶褐色ブロックを含み、ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする／2・3Pを切る	遺物なし	中世以降	
2 P	(A-5)C	隅丸方形	27	25	45	2層：ローム粒子を含む暗褐色土を主体とする／1Pに切られ、3Pを切る	遺物なし	中世以降	
3 P	(B-5)G	隅丸方形	51	43	77	4層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする／1・2Pに切られる	遺物なし	中世以降	
4 P	(B-5)G	隅丸方形	29	26	19	単層：ロームブロックを含み、ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降	
5 P	(B-5)G	隅丸方形	27	24	22	2層：ローム粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降	
6 P	(D-4)G	隅丸長方形	24	20	46	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む暗褐色土	遺物なし	中世以降	
7 P	(D・E-4)G	不明	不明	24	不明	17	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
8 P	(D-4)G	不明	不明	不明	23	不明	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
9 P	(D-4)G	隅丸方形	27	26	31	2層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降	
10 P	(D-4)G	隅丸長方形	48	28	34	3層：ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする	板碑1点：小破片のため図示なし	中世以降	
11 P	(D-4)G	隅丸方形	32	11	62	2層：ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする	板碑2点：小破片のため図示なし	中世以降	
12 P	(D-4)G	隅丸方形	34	28	35	2層：ロームブロックを多く、ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降	
13 P	(D-4)G	隅丸方形	28	27	30	単層：ロームブロックを多く、ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降	
14 P	(D-4)G	不明	不明	30	48	4層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降	
15 P	(B-4)G	隅丸方形か	不明	47	60	2層：/26Mに切られる	遺物なし	中世以降	
16 P	(B-4)G	隅丸方形	30	30	52	2層：/26Mに切られる	遺物なし	中世以降	
17 P	(D-3・4)G	隅丸長方形	31	27	13	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土／21Pを切る	遺物なし	中世以降	
19 P	(D-4)G	不明	不明	不明	8	不明	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子・炭化材・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土／25Mと重複	遺物なし	中世以降
20 P	(D-4)G	隅丸方形か	不明	22	7	不明	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土／25Mと重複	遺物なし	中世以降
21 P	(D-4)G	隅丸方形か	36	不明	26	不明	2層：ローム粒子を多く含み、ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする／17Pに切られ、25Mと重複	遺物なし	中世以降
22 P	(D-3)G	隅丸方形	32	32	60	不明	2層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする／82Pと重複	遺物なし	中世以降
23 P	(D-4)G	隅丸方形	25	24	17	不明	2層：ローム粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
24 P	(D-4)G	不明	不明	不明	46	不明	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする／25Pを切り、25Mと重複	遺物なし	中世以降
25 P	(D-4)G	不明	不明	不明	20	不明	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土／24Pに切られ、25Mと重複	遺物なし	中世以降
26 P	(D-4)G	不明	不明	不明	40	不明	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土／25Mと重複	遺物なし	中世以降
27 P	(D-4)G	隅丸長方形	不明	21	21	不明	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土／25Mと重複	遺物なし	中世以降
28 P	(C-5)G	隅丸方形	28	28	47	不明	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
29 P	(C-5)G	隅丸方形	24	24	33	不明	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
30 P	(D-3)G	隅丸方形	34	30	37	不明	5層	遺物なし	中世以降
31 P	(D-3)G	隅丸方形	32	30	28	不明	5層	遺物なし	中世以降
32 P	(D-3)G	隅丸方形	39	39	29	不明	4層／106・126Pを切り、169Dと重複	遺物なし	中世以降
33 P	(D-4)G	隅丸方形	36	35	23	不明	6層／169Dと重複	鉄製品1点(釘)	中世以降
34 P	(D-3・4)G	隅丸長方形	35	25	27	不明	単層(3層)：ローム粒子を僅かに含む暗褐色土／段切状遺構覆土下から検出／257・297Pを切る	遺物なし	中世以降
35 P	(D-3)G	隅丸長方形か	不明	25	22	不明	2層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする／68Pと重複	遺物なし	中世以降
36 P	(D-3・4)G	隅丸方形	39	39	38	不明	2層：ローム粒子を多く、ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
37 P	(D-3)G	隅丸長方形か	41	不明	49	不明	3層(4~6層)／段切状遺構覆土下から検出／38Pに切られる	遺物なし	中世以降
38 P	(D-3)G	隅丸長方形	54	38	73	不明	3層：ローム粒子を多く含み、ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする／37Pを切る	遺物なし	中世以降
39 P	(D-3)G	隅丸長方形	42	25	40	不明	2層：ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
40 P	(C-4)G	隅丸方形	40	36	31	不明	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする／41Pを切る	遺物なし	中世以降
41 P	(C-4)G	隅丸方形	38	38	70	不明	4層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする／40Pに切られる	遺物なし	中世以降

第12表 中世以降のピット一覧(1)

遺構名	位置	平面形	規模(m)			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
42 P	(D-4)C	隅丸長方形	47	31	27	単層：ローム小ブロックを含み、ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
43 P	(C-4)C	隅丸長方形	38	30	49	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロック・炭土粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
44 P	(D-4)C	隅丸方形	32	27	19	2層：ローム粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする/45Pを切り、169Dと重複	遺物なし	中世以降
45 P	(D-4)C	隅丸方形	30	30	13	2層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/44Pに切られる	遺物なし	中世以降
46 P	(C-4)C	隅丸方形	25	23	9	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
47 P	(D-4)C	隅丸方形	35	30	20	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/169Dと重複	遺物なし	中世以降
48 P	(C-3)C	隅丸方形	22	20	45	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
49 P	(D-4)C	隅丸長方形	38	27	25	2層/50・89・263Pを切る	遺物なし	中世以降
50 P	(D-4)C	隅丸方形	37	35	67	4層：ローム粒子を多く含み、ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする/49Pに切れ、89Pと重複	遺物なし	中世以降
51 P	(D-4)C	隅丸方形	39	33	49	3層：ロームブロックを含み、ローム粒子・ローム小ブロック・炭土粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする	陶器1点(碗)	近世(18c)
52 P	(D-3)C	隅丸方形	24	23	12	土層注記なし	遺物なし	中世以降
53 P	(D-3)C	隅丸方形	24	22	11	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/68Pと重複	遺物なし	中世以降
54 P	(D-3)C	隅丸方形	23	23	41	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/167Dと重複	遺物なし	中世以降
55 P	(D-3)C	不明	不明	24	21	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/167D、25Mと重複	遺物なし	中世以降
56 P	(D-3)C	隅丸長方形	36	26	55	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/167Dと重複	遺物なし	中世以降
57 P	(D-3)C	隅丸方形	31	26	22	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/167Dと重複	遺物なし	中世以降
58 P	(D-3)C	隅丸方形か	25	不明	9	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
59 P	(D-4)C	隅丸方形	21	18	29	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭土粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
60 P	(D-4)C	隅丸方形	29	25	23	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
61 P	(D-4)C	隅丸方形	20	20	19	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/166Dと重複	遺物なし	中世以降
62 P	(D-4)C	隅丸長方形	30	18	14	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・炭土粒子を僅かに含む暗褐色土/72Pと重複	遺物なし	中世以降
63 P	(D-4)C	隅丸長方形	31	24	36	2層：ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/266Pを切る	遺物なし	中世以降
64 P	(D-4)C	隅丸方形	27	24	40	3層：ローム小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする/266Pを切る	遺物なし	中世以降
65 P	(D-4)C	隅丸長方形	62	不明	26	2層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
66 P	(D-4)C	隅丸長方形	40	25	34	4層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする/67・266Pを切る	遺物なし	中世以降
67 P	(D-4)C	隅丸長方形か	不明	不明	50	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/66Pに切られ、266Pを切る	遺物なし	中世以降
68 P	(D-4)C	隅丸方形	20	20	22	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/257Pを切り、35・53Pと重複	遺物なし	中世以降
69 P	(D-4)C	隅丸方形か	27	不明	39	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
70 P	(D-3)C	隅丸方形	40	32	40	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/71Pを切る	遺物なし	中世以降
71 P	(D-3)C	隅丸長方形か	不明	31	60	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする/70Pに切れ、264Pを切る	遺物なし	中世以降
72 P	(D-4)C	隅丸方形か	不明	22	9	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・炭土粒子を僅かに含む暗褐色土/62Pと重複	遺物なし	中世以降
73 P	(D-4)C	隅丸方形	39	27	12	単層：ローム粒子を含む暗褐色土/173Dの覆土を切る	遺物なし	中世以降
74 P	(D-3)C	隅丸方形	23	17	8	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
75 P	(D-3)C	隅丸方形	24	23	20	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
76 P	(D-3)C	隅丸方形	21	18	33	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
77 P	(D-4)C	不明	不明	32	47	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/169D、88・89Pと重複	遺物なし	中世以降
78 P	(D-4)C	隅丸方形	16	16	13	単層：ローム粒子を含む暗褐色土/169Dと重複	遺物なし	中世以降
79 P	(D-4)C	隅丸方形	29	27	50	単層：ローム粒子を僅かに含む暗褐色土/267Pを切り、169D、80・85Pと重複	遺物なし	中世以降
80 P	(D-4)C	隅丸方形	31	27	35	単層：ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/85Pを切り、169D、79Pと重複	遺物なし	中世以降
81 P	(D-3)C	隅丸方形	28	27	73	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含み、ロームブロックを含む暗褐色土/167Dと重複	遺物なし	中世以降
82 P	(D-3)C	隅丸方形か	16	不明	22	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/22Pと重複	遺物なし	中世以降

第12表 中世以降のピット一覧(2)

遺構名	位置	平面形	規模(m)			層土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
83 P	(D-3)C	不明	不明	35	15	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/169D、25Mと重複	遺物なし	中世以降
84 P	(D-3)C	隅丸長方形	43	34	61	4層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
85 P	(D-4)C	不明	21	不明	21	1層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/80Pに切られ、169D、79Pと重複	遺物なし	中世以降
86 P	(D-4・3)C	隅丸方形	35	32	17	4層/169Dを切る	遺物なし	中世以降
87 P	(D-3)C	隅丸長方形	37	26	32	1層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/169Dに切られ、110Pと重複	遺物なし	中世以降
88 P	(C-4)C	隅丸方形	23	20	14	1層：ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土/77Pと重複	遺物なし	中世以降
89 P	(D-4)C	不明	30	不明	22	1層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/49Pに切られ、50・77Pと重複	遺物なし	中世以降
90 P	(D-3)C	隅丸方形	26	24	20	1層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含み、ロームブロックを含む暗褐色土/169Dと重複	遺物なし	中世以降
91 P	(D-3)C	隅丸方形	30	27	39	1層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/169Dと重複	遺物なし	中世以降
92 P	(D-3)C	隅丸方形	30	25	72	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/169Dと重複	遺物なし	中世以降
93 P	(D-4)C	隅丸長方形	40	32	51	1層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土/169Dに切られ、101Pと重複	遺物なし	中世以降
94 P	(C-3)C	隅丸長方形	30	26	13	1層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
95 P	(D-3)C	隅丸方形	36	34	48	3層：ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む暗褐色土を主体とする/99Pを切り、125Pと重複/段切状遺構層土下から検出	遺物なし	中世以降
96 P	(C-3)C	隅丸方形	30	30	42	1層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/段切状遺構層土を切る	遺物なし	中世以降
97 P	(C-3)C	隅丸方形	27	27	57	1層：ローム小ブロック・ロームブロックを含み、ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
98 P	(D・C-3)C	隅丸長方形	34	25	16	1層：ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/99Pを切る	遺物なし	中世以降
99 P	(D-3)C	不明	不明	29	17	1層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/95・98Pに切られる	遺物なし	中世以降
100 P	(D-4)C	隅丸方形	30	22	44	1層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/101Pに切られ、169Dと重複	遺物なし	中世以降
101 P	(D-4)C	隅丸長方形	34	27	19	1層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/100 Pを切り、169D、93Pと重複	遺物なし	中世以降
102 P	(D-4)C	隅丸方形	28	25	21	1層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/169D、103Pと重複	遺物なし	中世以降
103 P	(D-4)C	隅丸方形	30	30	29	1層：ローム小ブロックを含み、ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土/169Dに切られ、267Pを切り102Pと重複	土製品1点(瓦石)	中世以降
104 P	(D-4)C	隅丸方形	21	20	40	1層：ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/169Dと重複	遺物なし	中世以降
105 P	(D-3)C	不明	不明	25	37	4層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗褐色土を主体とする/169D、121・122Pと重複	遺物なし	中世以降
106 P	(D-3)C	不明	27	不明	38	1層：ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/32Pに切られ、126Pを切る	遺物なし	中世以降
107 P	(C-3)C	隅丸長方形	47	40	84	3層：ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/124・125Pを切る	遺物なし	中世以降
108 P	(D-3)C	隅丸方形	34	34	60	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする/169Dと重複	遺物なし	中世以降
109 P	(D-4)C	隅丸長方形	40	31	10	1層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/169Dと重複	遺物なし	中世以降
110 P	(D-3)C	隅丸長方形	25	17	14	1層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/87Pと重複	遺物なし	中世以降
111 P	(D-3)C	不明	不明	35	25	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/112Pに切られる	遺物なし	中世以降
112 P	(D-3)C	隅丸方形	40	37	46	1層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/111Pを切り、123Pと重複	遺物なし	中世以降
113 P	(C-3・4)C	隅丸方形	37	33	63	3層：ローム小ブロック・ロームブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
114 P	(C-4)C	隅丸長方形	27	17	14	1層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
115 P	(C-4)C	隅丸方形	23	20	25	1層：ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
116 P	(C・D-3)C	隅丸方形	25	22	10	1層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
117 P	(D-3)C	隅丸方形	40	37	67	2層：ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
118 P	(D-3)C	隅丸長方形	32	25	21	1層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降

第12表 中世以降のピット一覧(3)

遺構名	位置	平面形	規模(m)			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
119 P	(D-3)G	隅丸方形	35	32	72	3層：ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
120 P	(C-4)G	隅丸方形	23	18	15	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
121 P	(D-3)G	隅丸方形	21	20	46	単層：ローム粒子・ロームブロックを含む黄褐色土/169D・105・122Pと重複	遺物なし	中世以降
122 P	(D-3)G	不明	20	不明	42	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/169D、105・121Pと重複	遺物なし	中世以降
123 P	(D-3)G	不明	28	不明	19	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/112Pと重複	遺物なし	中世以降
124 P	(C-3)G	隅丸長方形	30	27	42	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土/107Pに切られる	遺物なし	中世以降
125 P	(D-3)G	不明	不明	24	11	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/107Pに切れ、95Pと重複	遺物なし	中世以降
126 P	(D-3)G	隅丸方形	26	24	39	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/32・106Pに切られる	遺物なし	中世以降
127 P	(C-3)G	隅丸方形	45	43	66	2層/168Dと重複	遺物なし	中世以降
128 P	(C-3)G	隅丸長方形	30	21	15	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土/168Dに切られる	遺物なし	中世以降
129 P	(C-4)G	隅丸方形	48	45	55	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
130 P	(C-4)G	隅丸方形	40	36	17	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
131 P	(C-4)G	隅丸方形	32	27	30	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/133Pと重複	遺物なし	中世以降
132 P	(C-5)G	隅丸長方形か	不明	23	54	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
133 P	(C-4)G	隅丸方形か	不明	18	18	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土/131Pと重複	遺物なし	中世以降
134 P	(C-4)G	隅丸方形か	19	19	19	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土/207Pと重複	遺物なし	中世以降
135 P	(C-5)G	隅丸方形	27	22	47	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
136 P	(C-5)G	隅丸長方形	31	22	40	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
137 P	(C-5・4)G	隅丸方形	30	27	60	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
138 P	(C-4)G	隅丸方形	27	25	27	2層：ローム小ブロックを含み、ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/140Pと重複	遺物なし	中世以降
139 P	(C-4)G	隅丸方形	20	19	23	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/140Pと重複	遺物なし	中世以降
140 P	(C-4)G	隅丸長方形	30	19	53	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/138・139Pと重複	遺物なし	中世以降
141 P	(C-5)G	隅丸長方形	34	30	24	4層：ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	銭貨1点(明道元寶)	中世以降
142 P	(C-4・5)G	隅丸長方形	24	19	26	単層：ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
143 P	(B・C-5)G	隅丸方形	28	28	15	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
144 P	(C-5)G	隅丸方形	29	29	22	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
145 P	(B-5)G	隅丸長方形	42	31	59	単層：ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
146 P	(B-5)G	隅丸方形か	不明	22	28	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/147Pを切る	遺物なし	中世以降
147 P	(B-5)G	隅丸方形	35	34	31	単層：ローム粒子を多く含み、ロームブロックを含む暗褐色土/146Pに切られる	遺物なし	中世以降
148 P	(B-4)G	隅丸方形	39	38	4	2層：ローム小ブロックを含み、ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
149 P	(B-5)G	隅丸方形	65	65	65	6層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする/262Pを切り、175-177Pと重複	遺物なし	中世以降
150 P	(B-5)G	隅丸長方形	34	27	45	3層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
151 P	(B-4)G	隅丸方形	18	17	28	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/152Pを切る	遺物なし	中世以降
152 P	(B-4・5)G	隅丸方形	35	32	15	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/151Pに切られる	遺物なし	中世以降
153 P	(B-5)G	隅丸方形	27	25	17	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
154 P	(B-5)G	隅丸長方形	28	24	35	3層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む黒褐色土を主体とする/262Pを切る	遺物なし	中世以降

第12表 中世以降のピット一覧(4)

遺構名	位置	平面形	規模(m)			層土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
155 P	(B-5)G	隅丸方形	30	30	41	2層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/156Pを切る	遺物なし	中世以降
156 P	(B-5)G	隅丸長方形	32	26	24	1層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/155Pに切られる	遺物なし	中世以降
157 P	(B-5)G	隅丸方形	39	38	67	3層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
158 P	(B-4)G	隅丸方形	32	28	27	2層：焼土粒子を含み、ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
159 P	(B-5)G	隅丸長方形	36	27	23	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/180Pと重複	遺物なし	中世以降
160 P	(A-5)G	隅丸長方形	35	25	30	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
161 P	(C-3)G	隅丸長方形	24	18	34	3層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
162 P	(C-3)G	隅丸長方形	38	26	45	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
163 P	(C-3)G	隅丸方形	34	28	82	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
164 P	(B-5)G	隅丸方形か	不明	36	59	3層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
165 P	(B-5)G	隅丸長方形	35	25	10	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/174Pと重複	遺物なし	中世以降
166 P	(B-5)G	隅丸長方形	27	25	13	2層：ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
167 P	(C-4)G	隅丸長方形	35	24	25	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
168 P	(C-4)G	隅丸方形	21	18	16	単層：ローム小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
169 P	(C-3)G	隅丸方形	25	29	11	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
170 P	(A-5)G	隅丸方形	27	27	16	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
171 P	(B-5)G	隅丸方形	45	45	28	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
172 P	(A-5)G	隅丸方形	30	22	50	2層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
173 P	(A・B-5)G	隅丸長方形	22	17	13	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
174 P	(B-5)G	隅丸長方形か	不明	19	13	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/165Pと重複	遺物なし	中世以降
175 P	(B-5)G	不明	不明	不明	30	3層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/176・177Pを切り、149Pと重複	遺物なし	中世以降
176 P	(B-5)G	不明	不明	不明	不明	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/175Pに切られ、177Pを切り、149Pと重複	遺物なし	中世以降
177 P	(B-5)G	隅丸長方形か	30	不明	70	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/175・176Pに切られ、149Pと重複	遺物なし	中世以降
178 P	(A-5)G	不明	不明	22	21	2層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/179Pを切る	遺物なし	中世以降
179 P	(A-5)G	不明	不明	不明	29	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/178Pに切られる	遺物なし	中世以降
180 P	(B-4・5)G	隅丸長方形	34	29	46	2層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/159Pと重複	遺物なし	中世以降
181 P	(B-5)G	隅丸方形	28	26	13	単層：ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
182 P	(B-5)G	隅丸方形	24	22	11	単層：ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
183 P	(A-5)G	隅丸長方形か	不明	16	34	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
184 P	(C-4)G	不明	65	不明	13	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/185・208Pを切る	遺物なし	中世以降
185 P	(C-4)G	隅丸方形	27	27	52	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/184Pに切られる	遺物なし	中世以降
186 P	(B-4)G	隅丸方形	28	28	18	単層：ローム小ブロック・ロームブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
187 P	(B-4)G	隅丸方形	37	34	38	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
188 P	(B-4)G	隅丸長方形	30	23	61	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/202Pに切られる	遺物なし	中世以降
189 P	(C-4)G	隅丸方形	31	31	37	2層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする/205Pと重複	遺物なし	中世以降
190 P	(C-4)G	隅丸方形	31	31	32	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
191 P	(C-4)G	隅丸方形	31	27	31	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含み、ロームブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降

第12表 中世以降のピット一覧(5)

遺構名	位置	平面形	規模(m)			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
192 P	(B-4)C	隅丸長方形	28	22	49	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/26Mと重複	遺物なし	中世以降
193 P	(B-4)C	隅丸長方形	40	27	43	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
194 P	(B-4)C	隅丸長方形	39	29	22	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含み、ロームブロックを含む暗褐色土/26Mと重複	遺物なし	中世以降
195 P	(B-4)C	隅丸長方形	33	25	58	単層：ローム小ブロックを多く含み、ローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土/209Pを切り、26Mと重複	遺物なし	中世以降
196 P	(B-4)C	隅丸長方形	34	28	114	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗褐色土を主体とする/26Mと重複	遺物なし	中世以降
197 P	(B-4)C	隅丸長方形	31	29	70	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗褐色土/26Mと重複	遺物なし	中世以降
198 P	(B-4)C	隅丸長方形	27	20	62	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/26Mと重複	遺物なし	中世以降
199 P	(B-4)C	隅丸長方形	27	20	61	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする/26Mと重複	遺物なし	中世以降
200 P	(B-4)C	隅丸長方形	22	16	39	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗褐色土/26Mと重複	遺物なし	中世以降
201 P	(C-4)G	隅丸長方形	30	27	9	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	鉄製品1点(釘): 図示なし	中世以降
202 P	(B-4)C	隅丸長方形	30	20	56	単層：ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/203Pに切れ、188Pを切る	遺物なし	中世以降
203 P	(B-4)C	隅丸長方形	27	22	11	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/202Pを切る	遺物なし	中世以降
204 P	(C-3)G	隅丸長方形	32	32	80	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
205 P	(C-4)G	隅丸長方形	30	26	34	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土/189Pと重複	遺物なし	中世以降
206 P	(B-5)G	隅丸長方形	22	22	16	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
207 P	(C-4)G	隅丸長方形	18	17	39	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土/134Pと重複	遺物なし	中世以降
208 P	(C-4)G	隅丸長方形	30	18	41	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/184Pに切れ、26Mと重複	遺物なし	中世以降
209 P	(B-4)C	不明	不明	24	32	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/195Pに切れ、26Mと重複	遺物なし	中世以降
210 P	(B-4)C	不明	32	29	12	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・機土粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土/211・220Pを切る	遺物なし	中世以降
211 P	(B-4)C	隅丸長方形か	不明	27	35	2層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/210Pに切れ、26Mと重複	遺物なし	中世以降
212 P	(B-4)C	隅丸長方形	26	22	24	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/213Pを切り、220・310Pと重複	遺物なし	中世以降
213 P	(B・C-4)G	隅丸長方形	41	32	19	2層：ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む暗褐色土を主体とする/212Pに切れ、214・221Pを切る	遺物なし	中世以降
214 P	(C-4)G	隅丸長方形か	不明	33	14	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/213・221Pに切られる	遺物なし	中世以降
215 P	(C-4)G	隅丸長方形	45	38	64	5層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
216 P	(B-4)C	隅丸長方形	36	26	71	単層：ローム粒子を多く含み、ローム小ブロックを含む暗褐色土/233Pと重複	遺物なし	中世以降
217 P	(C-4)G	隅丸長方形	25	24	15	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子・機土粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
218 P	(C-4)G	隅丸長方形か	24	不明	23	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/219Pと重複	遺物なし	中世以降
219 P	(C-4)G	隅丸長方形	30	27	30	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/218Pと重複	遺物なし	中世以降
220 P	(B-4)C	隅丸長方形か	32	不明	33	3層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・機土粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする/210Pに切れ、212Pと重複	遺物なし	中世以降
221 P	(B・C-4)G	隅丸長方形か	不明	26	40	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/213Pに切れ、214Pを切る	遺物なし	中世以降
222 P	(C-4)G	隅丸長方形	31	30	52	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/223Pを切る	遺物なし	中世以降
223 P	(C-4)G	隅丸長方形	32	30	80	2層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗褐色土を主体とする/222Pに切れ、26Mと重複	遺物なし	中世以降
224 P	(B-4)C	隅丸長方形	28	24	40	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
225 P	(C-4)G	隅丸長方形	38	29	48	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/235Pと重複	遺物なし	中世以降
226 P	(B-4)C	隅丸長方形	29	20	56	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/227Pを切り、234Pと重複	遺物なし	中世以降

第12表 中世以降のピット一覧(6)

遺構名	位置	平面形	規模(m)			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
227 P	(B-4)C	隅丸長方形	27	22	45	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/226Pに切られる	遺物なし	中世以降
228 P	(C-4)G	隅丸方形	26	22	34	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
229 P	(C-3・4)G	隅丸長方形	30	23	53	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土/230Pに切られる	遺物なし	中世以降
230 P	(C-3)G	隅丸長方形	37	23	62	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする/229Pを切る	遺物なし	中世以降
231 P	(C-4・5)G	隅丸長方形	22	18	52	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/170Dと重複	遺物なし	中世以降
232 P	(B-4)G	隅丸方形	20	20	16	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
233 P	(B-4)G	隅丸方形	21	17	20	単層：ロームブロックを含み、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土/216Pと重複	遺物なし	中世以降
234 P	(B-4)G	隅丸長方形	28	19	8	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/25M、226Pと重複	遺物なし	中世以降
235 P	(C-4)G	隅丸方形	31	30	81	4層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/225Pと重複	遺物なし	中世以降
236 P	(C-4)G	隅丸長方形	32	26	54	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
237 P	(C-4)G	隅丸長方形	31	28	33	2層：ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む黒褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
238 P	(B・C-4)G	隅丸方形	25	23	36	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/328・329・337Pを切る	遺物なし	中世以降
239 P	(C-4)G	隅丸方形	27	25	81	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗褐色土を主体とする/360Pと重複	遺物なし	中世以降
240 P	(C-4)G	隅丸方形	26	26	80	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗褐色土/241Pを切る	遺物なし	中世以降
241 P	(C-4)G	隅丸方形	25	25	29	単層：ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/240Pに切られる	遺物なし	中世以降
242 P	(B-4)G	隅丸方形	26	26	31	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む黄褐色土/243Pを切り、244Pと重複	遺物なし	中世以降
243 P	(B-4)G	隅丸長方形	不明	36	22	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含み、ロームブロックを含む暗褐色土/242Pに切られる	遺物なし	中世以降
244 P	(B-4)G	隅丸方形	30	26	9	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/242Pと重複	遺物なし	中世以降
245 P	(C-5)G	隅丸長方形	36	23	70	3層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/246Pを切る	遺物なし	中世以降
246 P	(C-5)G	隅丸長方形	32	30	69	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む黒褐色土/245Pに切られる	遺物なし	中世以降
247 P	(C-4)G	隅丸方形	28	24	75	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む黒褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
248 P	(C-3)G	隅丸方形	27	27	45	4層：ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする/249・256・370Pと重複	遺物なし	中世以降
249 P	(C-3・4)G	隅丸長方形	32	25	63	2層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/370・372・373Pを切り、248Pと重複	遺物なし	中世以降
250 P	(B-4)G	隅丸長方形	37	30	45	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
251 P	(C-4)G	隅丸方形	28	28	52	2層：ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/170・171Dに切られる	遺物なし	中世以降
252 P	(C-4)G	隅丸方形	25	22	56	単層：ロームブロックを多く含み、ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/306・321Pを切る	遺物なし	中世以降
253 P	(B・C-4)G	隅丸方形	25	24	67	土層表記なし/309・327・336Pと重複	遺物なし	中世以降
254 P	(C-3・4)G	隅丸方形	30	25	35	単層：ローム粒子を多く含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/255Pを切り、307・308Pと重複	遺物なし	中世以降
255 P	(C-3・4)G	隅丸長方形	43	28	48	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/254Pに切られ、308Pと重複	遺物なし	中世以降
256 P	(C-3)G	隅丸長方形	28	20	61	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/370Pに切られ、371Pを切り、248Pと重複	遺物なし	中世以降
272 P	(B-4)G	隅丸方形	24	24	23	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土/273Pを切る	遺物なし	中世以降
273 P	(B-4)G	隅丸長方形	36	30	53	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/272Pに切られる	遺物なし	中世以降
274 P	(B-4)G	隅丸方形	31	30	51	4層：ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする	銭貨1点 (新定通貨)	中世以降
275 P	(B-4)G	隅丸方形	70	48	21	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗褐色土を主体とする/281Pを切る	遺物なし	中世以降
276 P	(B-4)G	隅丸長方形	35	26	42	2層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/277Pを切る	遺物なし	中世以降

第12表 中世以降のピット一覧(7)

遺構名	位置	平面形	規模(m)			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
277 P	(B-4)C	隅丸方形	不明	31	31	単層：ローム粒子・炭化物粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/276Pに切られ、291・292Pと重複	遺物なし	中世以降
278 P	(A-4)C	隅丸方形	不明	31	21	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/279Pに切られる	遺物なし	中世以降
279 P	(A-4)C	不明	不明	不明	22	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/278Pを切る	遺物なし	中世以降
280 P	(A-4)C	隅丸方形	26	21	24	単層：ローム粒子を多く含み、ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
281 P	(B-4)C	隅丸方形	40	38	41	3層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/275Pに切られる	遺物なし	中世以降
282 P	(B-4)C	隅丸長方形	29	25	45	単層：ローム粒子を多く含み、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/285・286Pを切る	遺物なし	中世以降
285 P	(B-4)C	隅丸方形	32	不明	55	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗褐色土/282Pに切られ、286Pを切る	遺物なし	中世以降
286 P	(B-4)C	隅丸方形	42	38	51	3層：ローム粒子を多く含み、ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/282・285Pに切られ、287Pと重複	遺物なし	中世以降
287 P	(B-4)C	隅丸長方形	32	23	34	単層：ローム粒子を多く含み、ローム小ブロックを含む暗褐色土/286Pと重複	遺物なし	中世以降
288 P	(B-4)C	隅丸方形	31	不明	52	2層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
289 P	(B-4)C	隅丸方形	41	30	51	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/27Mと重複	遺物なし	中世以降
290 P	(A-4)C	不明	不明	29	59	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/27Mに切られる	遺物なし	中世以降
291 P	(A・B-4)C	隅丸長方形	35	28	19	土層注記なし/277Pと重複	遺物なし	中世以降
292 P	(B-4)C	不明	不明	18	26	土層注記なし/277Pと重複	遺物なし	中世以降
293 P	(C-4)C	隅丸方形	34	29	49	3層：ローム粒子を多く含み、ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
294 P	(C-3)C	隅丸方形	25	20	15	単層：ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/27Mを切る	遺物なし	中世以降
295 P	(B-5)C	隅丸長方形	37	27	49	2層：ロームブロックを多く含み、ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/26・27Mと重複	遺物なし	中世以降
296 P	(B-4)C	隅丸長方形	34	30	10	5層(2-6層)/段切状遺構覆土。27M、30Pを切る	遺物なし	中世以降
299 P	(B-4)C	隅丸方形	44	41	55	3層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
300 P	(B-4)C	隅丸長方形	不明	31	48	単層(9層)/段切状遺構覆土下から抽出/296Pに切られる	遺物なし	中世以降
301 P	(E-4)C	不明	不明	14	17	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
302 P	(B-4)C	不明	25	17	38	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
303 P	(C-3)C	隅丸方形	28	25	17	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
304 P	(C-3)C	隅丸方形	27	26	10	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
305 P	(C-3)C	隅丸方形	29	25	48	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/306Pと重複	遺物なし	中世以降
306 P	(C-3)C	隅丸方形	不明	26	68	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗褐色土を主体とする/252Pに切られ、305・311Pと重複	遺物なし	中世以降
307 P	(C-4)C	隅丸長方形	40	32	65	2層：ローム粒子を多く含み、ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/254Pと重複、308Pを切る	遺物なし	中世以降
308 P	(C-4・3)C	隅丸方形	不明	30	61	2層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする/307Pに切られ、254・255Pと重複	遺物なし	中世以降
309 P	(B・C-4)C	隅丸方形	36	36	91	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/310Pを切り、253・322Pと重複	遺物なし	中世以降
310 P	(B-4)C	隅丸方形	26	20	56	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/309Pに切られ、212・322Pと重複	遺物なし	中世以降
311 P	(C-4)C	隅丸長方形	30	20	14	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/306Pと重複	遺物なし	中世以降
312 P	(C・D-2)C	隅丸長方形	33	26	51	単層：ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
313 P	(C-3)C	隅丸方形	25	23	41	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/314Pを切る	遺物なし	中世以降
314 P	(C-3)C	隅丸長方形	32	23	43	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/313Pに切られ、315Pを切る	遺物なし	中世以降
315 P	(C-3)C	隅丸長方形	35	22	72	3層：ローム粒子を含む暗褐色土を主体とする/314Pに切られ、316Pと重複	遺物なし	中世以降
316 P	(C-3)C	隅丸長方形	32	23	84	土層注記なし/315Pと重複	遺物なし	中世以降
317 P	(C-3)C	隅丸長方形	30	18	19	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
318 P	(C-2)C	隅丸方形	36	33	44	6層：ローム小ブロックを多く含み、ローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降

第12表 中世以降のピット一覧(8)

遺構名	位置	平面形	規模(m)			層土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
319 P	(C-3)G	隅丸長方形	25	18	36	3層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/320Pを切り、323Pと重複	遺物なし	中世以降
320 P	(C-3)G	隅丸長方形	40	35	67	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗褐色土/319Pに切られ、323Pと重複	遺物なし	中世以降
321 P	(C-4)G	隅丸長方形	28	不明	71	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/252Pに切られる	遺物なし	中世以降
322 P	(B-4)G	隅丸長方形	30	不明	56	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/309・310Pと重複	遺物なし	中世以降
323 P	(C-3)G	隅丸長方形	24	13	39	土層圧記なし/319・320Pと重複	遺物なし	中世以降
324 P	(C-4)G	隅丸長方形	26	24	44	2層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
325 P	(C-3)G	隅丸長方形	42	35	63	4層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/326Pを切る	遺物なし	中世以降
326 P	(C-3)G	不明	不明	不明	42	単層：ロームブロックを多く含む、ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/325Pに切られる	遺物なし	中世以降
327 P	(C・B-4)G	隅丸長方形	28	22	67	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする/253・336Pと重複	遺物なし	中世以降
328 P	(B・C-4)G	隅丸長方形	31	26	34	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/238Pに切られ、329Pを切る	遺物なし	中世以降
329 P	(C-4)G	隅丸長方形	35	不明	16	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/238・328Pに切られる	遺物なし	中世以降
330 P	(B-4)G	隅丸長方形	25	24	44	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/27Mと重複	遺物なし	中世以降
331 P	(C-4)G	隅丸長方形	38	35	79	2層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
332 P	(C-4)G	隅丸長方形	22	22	13	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
333 P	(C-3)G	隅丸長方形	35	35	59	4層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/27Mを切る	遺物なし	中世以降
334 P	(C-2)G	隅丸長方形	32	27	38	2層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
335 P	(C-3)G	隅丸長方形	24	24	18	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
336 P	(B-4)G	隅丸長方形	不明	25	25	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/253・327・337Pと重複	遺物なし	中世以降
337 P	(B・C-4)G	隅丸長方形	36	19	16	2層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/238Pに切られ、336Pと重複	遺物なし	中世以降
338 P	(C-4)G	隅丸長方形	20	14	35	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
339 P	(C-2)G	隅丸長方形	25	24	42	単層(第12図のB-B'8層)/四切状遺構層土下から検出	遺物なし	中世以降
340 P	(D-2)G	隅丸長方形	23	18	41	2層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
341 P	(C-2)G	隅丸長方形	26	25	47	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
342 P	(C-3)G	隅丸長方形	28	20	17	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
343 P	(C-2・3)G	隅丸長方形	23	23	59	2層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
344 P	(C-2)G	隅丸長方形	25	22	62	2層：ローム粒子を多く含む、ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
345 P	(C-2)G	隅丸長方形	25	25	15	単層：ローム粒子を多く含む、ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
346 P	(C-2)G	隅丸長方形	35	24	37	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/27Mと重複	遺物なし	中世以降
347 P	(C-2)G	隅丸長方形	35	35	66	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、ロームブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
348 P	(B-2)G	隅丸長方形	33	25	18	単層：ローム粒子を多く含む、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/180Dを切る	遺物なし	中世以降
349 P	(C-3)G	隅丸長方形	22	22	29	2層：ローム粒子を多く含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
350 P	(C-4)G	隅丸長方形	35	24	48	2層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
351 P	(C-2)G	隅丸長方形	23	23	34	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
352 P	(C-2)G	隅丸長方形	40	35	22	2層：ローム小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする/353Pを切る	遺物なし	中世以降
353 P	(C-2)G	隅丸長方形	不明	25	21	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/352Pに切られる	遺物なし	中世以降
354 P	(C-2)G	隅丸長方形	25	18	18	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
355 P	(B-2)G	隅丸長方形	32	20	26	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/182 Dと重複	遺物なし	中世以降

第12表 中世以降のピット一覧(9)

遺構名	位置	平面形	規模(m)			層土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
356 P	(B-2)C	隅丸長方形	30	26	16	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/26Mと重複	遺物なし	中世以降
357 P	(C-2)G	隅丸長方形	30	20	11	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
359 P	(B-2)G	隅丸方形	20	19	26	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
360 P	(C-3・4)G	隅丸長方形	30	25	54	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む暗褐色土を主体とする/239Pと重複、373Pを主切る/段切状遺構層土下から検出	遺物なし	中世以降
361 P	(C-2)G	不明	不明	不明	11	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土/362Pを切る	遺物なし	中世以降
362 P	(C-2)G	隅丸長方形	35	26	61	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/361Pに切られる	遺物なし	中世以降
363 P	(C-2・3)G	不明	35	不明	58	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗褐色土を主体とする/364Pと重複	遺物なし	中世以降
364 P	(C-3)G	隅丸方形	40	35	109	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/363Pと重複	遺物なし	中世以降
365 P	(C-3)G	隅丸長方形	21	15	48	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
366 P	(B・C-3)G	隅丸方形	27	26	8	2層：ローム粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする/186Dを切る	遺物なし	中世以降
367 P	(B-2)G	隅丸方形	32	20	9	2層：ロームブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む暗褐色土を主体とする/182D、26Mと重複	遺物なし	中世以降
368 P	(C-4)G	隅丸方形か	不明	不明	33	2層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/369Pを切る	遺物なし	中世以降
369 P	(C-4)G	隅丸方形	25	24	43	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/368Pに切られる	遺物なし	中世以降
370 P	(C-3)G	不明	不明	不明	23	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/249Pに切られ、256・371Pを切り、248Pと重複	遺物なし	中世以降
371 P	(C-3)G	隅丸長方形	27	20	56	単層：ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/256・370Pに切られ、374Pと重複	遺物なし	中世以降
372 P	(C-4)G	隅丸方形か	不明	25	42	2層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを主体とする/249・373Pに切られる	遺物なし	中世以降
373 P	(C-3・4)G	隅丸長方形	28	24	57	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/249・360Pに切られ、372Pを切る	遺物なし	中世以降
374 P	(C-3)G	不明	不明	不明	44	土層注記なし/371Pと重複	遺物なし	中世以降
375 P	(C-3)G	不明	不明	18	38	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/376Pを切る	遺物なし	中世以降
376 P	(C-3)G	隅丸長方形	40	27	47	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/375Pに切られる	遺物なし	中世以降
378 P	(C-2・3)G	隅丸方形	38	40	52	2層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
379 P	(C-3)G	隅丸長方形	48	35	47	3層：ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/28Mを切る	遺物なし	中世以降
383 P	(C-3)G	隅丸方形	15	15	不明	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/28Mに切られる	遺物なし	中世以降
384 P	(B-2)G	隅丸方形	35	32	40	2層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
385 P	(B-3)G	隅丸方形	45	40	61	土層注記なし	遺物なし	中世以降
386 P	(D-3)G	隅丸方形	27	26	43	2層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
387 P	(D-2・3)G	隅丸長方形	32	19	44	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/28Mを切る	遺物なし	中世以降
388 P	(C-3)G	隅丸長方形	35	26	34	4層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とする/28Mに切られる/底面に段差あり	遺物なし	中世以降
389 P	(C-3)G	隅丸長方形	23	13	50	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/28Mと重複	遺物なし	中世以降
390 P	(C-3)G	隅丸方形	26	23	23	単層：ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/28Mと重複	遺物なし	中世以降
391 P	(C-3)G	隅丸方形	32	31	63	2層：ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする/28Mを切る	遺物なし	中世以降
392 P	(B-3)G	隅丸長方形	25	20	41	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む暗褐色土/181D、28Mと重複	遺物なし	中世以降
393 P	(B-3)G	隅丸長方形	20	15	26	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/181D、28Mと重複	遺物なし	中世以降
394 P	(C-2・3)G	隅丸方形	33	32	61	3層：ローム粒子・ロームブロック・ロームブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
395 P	(C-2)G	隅丸方形	25	25	40	2層：ローム粒子・ロームブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を主体とする	遺物なし	中世以降
396 P	(C-3)G	隅丸方形	25	25	16	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/28Mに切られる	遺物なし	中世以降

第12表 中世以降のピット一覧(10)

33 Pの1は鉄製品の釘である(第25図1、図版11-1-1)。現存長3.1cm・幅0.5cm・厚さ0.5cm、重さ2.2g。下半部を欠損。

51 Pの1は肥前系の磁器染付碗である(図版11-1-1)。現器高3.1cm。内面見込みに圏線あり。外面に文様あり。腰部に二重圏線あり。体部下半～底部小破片。時期は近世(18世紀)と思われる。

103 Pの1は凝灰岩製の砥石である(第25図1、図版11-1-1)。長さ13.6cm・幅4.4cm・厚さ3.6cm・重さ195.5g。上端部を欠損。使用面は表裏面、両側面の4面であり、使用面には線状擦痕が認められる。正面・右側面にはV字状の刃物痕が残る。下端面には成形時の加工痕が認められる。覆土中層(底面から20cm上)からの出土。

141 Pの1は銭貨で明道元寶である(第25図1、図版11-1-1)。外径2.5cm・方孔一辺0.7cm・厚さ0.1cm・重さ2.0g。初鑄年は北宋(1032)年で、ほぼ完形品である。

274 Pの1は銭貨の嘉定通寶と思われる(第25図1、図版11-1-1)。外径2.4cm・方孔一辺0.6cm・厚さ0.1cm・重さ1.3g。初鑄年は南宋(1208)。下端が欠損しているが、表面「嘉口通寶」、裏面「十」であろう。



第25図 中世以降のビット出土遺物(1/3・4/5)

第4節 遺構外出土遺物

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時代の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の土器、弥生時代後期～古墳時代前期の土器、中世以降の遺物に分類する。

(1) 縄文時代の土器 (第26図1～9、図版11-2-1～9、第13表)

1・2は早期後葉の条痕文系土器である。

3～5は前期の土器で、3は前期前葉～中葉の関山式～黒浜式土器で、4・5は前期後葉の諸磯式土器である。

6～9は中期後葉の加曾利E式土器である。

(2) 弥生時代後期～古墳時代前期の土器 (第26図10～12、図版11-2-10～12、第13表)

10～12は弥生時代後期～古墳時代前期の土器で、すべて甕形土器の胴部破片である。

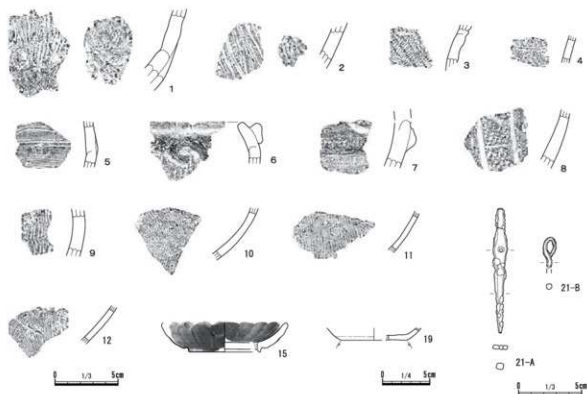
(3) 中世以降の遺物 (第26図15・19、図版11-2-13～22、第14表)

[陶磁器・土器] (第26図15・19、図版11-2-13～20、第14表)

13は磁器で、肥前系の碗である。14～16は陶器で、14は瀬戸・美濃系の皿、15は内外面に志野釉が施軸された瀬戸・美濃系の菊皿、16は常滑甕である。17～20は土器で、17～19はかわらけ、20は焙烙である。

[鉄製品] (第26図21、図版11-2-21)

21は不明鉄製品である。鍵か。Aは、最大長9.9cm、最大幅1.2cm、厚さ0.3～0.5cm、重さ8.9g。中央やや上部の最大幅付近に径0.3cm程度の穿孔がある。横断面形は方形である。末端部は針状に尖っている。Bは、最大長2.4cm、最大幅1.0cm、軸幅0.4cm、厚さ0.4cm、重さ1.0g。上部は楕円形に曲げられ、長軸での直径1cmの輪を呈する。下部は欠損する。遺構外からの出土である。



第26図 遺構外出土遺物 (1/4・1/3)

第3章 中道遺跡第74地点の調査

探検番号 図版番号	器種 類別	部位 依存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土遺構 出土位置
第26図1 図版11-2-1	深鉢	底部 破片	厚1.0	尖底/胴部下端から 底部が肥厚/胴部は 外積	外面は縦方向、内面はやや斜方 向の貝殻条痕文/底部の肥厚す る部位は無文	赤褐色/砂粒・礫 中量、繊維微量	縄文早期後葉 条痕文系	遺構外
第26図2 図版11-2-2	深鉢	胴部 破片	厚1.1	外積する	内外面に条痕文	暗赤褐色/砂粒・ 礫少量、繊維微量	縄文早期後葉 条痕文系	28M
第26図3 図版11-2-3	深鉢	胴部 破片	厚0.9	外反して外積	0段多条単節RL縦位施文	にぶい橙/砂粒・ 礫・繊維微量	縄文前期中期 開山式~黒直式	28M
第26図4 図版11-2-4	深鉢	胴部 破片	厚0.6	外積	地文は単節RL縦位施文か/半 截竹管状工具による並行沈線	にぶい赤褐/砂粒・ 礫・角閃石 微量	縄文前期後葉 溝式	26M
第26図5 図版11-2-5	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	内陥する口縁部	地文は無文/半截竹管状工具 による並行沈線が上下に2本横走 し、縦位の並行沈線により連結 される	にぶい橙/砂粒・ 礫少量、角閃 石微量	縄文前期後葉 溝式	段切状遺構
第26図6 図版11-2-6	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	強く内湾する口縁部	地文は帯系L縦位施文/口縁部 上端に太く背の高い縦帯が横走 /隆帯による渦巻状文	にぶい橙/砂粒・ 礫少量	縄文中期後葉 加曾利E1式	28M
第26図7 図版11-2-7	深鉢	頸部 破片	厚1.2	外積	太く幅広い隆帯による区画文か/ 隆帯部には沈線が沿う/頸部 は無文	にぶい黄橙/砂粒・ 礫少量	縄文時代中期後 葉 加曾利E2式	遺構外
第26図8 図版11-2-8	深鉢	胴部 破片	厚0.9	内湾して外積	地文はやや節の粗い単節RLL縦 位施文/漕溝を伴う沈線が垂下 /沈線は2本1対か	にぶい橙/砂粒・ 礫中量、褐色 粒子少量	縄文中期後葉 加曾利E3式	遺構外
第26図9 図版11-2-9	深鉢	胴部 破片	厚1.0	やや内湾	やや波状を呈する縦位の条線	にぶい黄橙/砂粒・ 礫中量、角 閃石少量	縄文中期後葉 加曾利E3~4式	遺構外
第26図10 図版11-2-10	甕	胴部 破片	厚0.6	球状の胴部	内面：ヘラナデ/外面：ハケ目 調整	にぶい赤褐/砂粒 中量	弥生後期~ 古墳前期	段切状遺構
第26図11 図版11-2-11	甕	胴部 破片	厚0.4	やや膨らみを呈する 胴部	内面：ハケ目調整後、ヘラナデ /外面：ハケ目調整	橙/砂粒・赤褐 色粒子少量	弥生後期~ 古墳前期	184P
第26図12 図版11-2-12	甕	胴部 破片	厚0.4	やや膨らみを呈する 胴部	内面：ヘラナデ/外面：ハケ目 調整	にぶい橙/砂粒 少量、褐色粒子 中量	弥生後期~ 古墳前期	180D

第13表 遺構外出土土器一覧

図版番号	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	出土位置	時期
図版11-2-13	磁器	碗	厚0.4	染付/外面に草花文?/体部下半破片	肥前系	試掘2Tr	近世 (18c前半)
図版11-2-14	陶器	皿	厚0.4	内外面に灰釉/胎土：色調は灰白色、砂粒を僅かに含む /口縁部小破片	瀬戸・美濃系	遺構外	中世 (15c)
第26図15 図版11-2-15	陶器	皿	高3.1 口(13.4) 底(7.6)	菊歯/内外面に志野釉/貫入あり/胎土：色調は灰黄色 /遺存度：20%	瀬戸・美濃系	遺構外	中世 (15~16c)
図版11-2-16	陶器	甕	厚1.0	大湾/外面に鉄釉/胎土：色調は褐色、砂粒をやや多く 含む/体部破片	常滑	遺構外	中世 (14~15c)
図版11-2-17	土器	皿	厚0.6	かわらけ/ロクロ成形/胎土：色調は褐色、赤褐色粒子 ・砂粒を多く含む/口縁部小破片	在地系	遺構外	中世 (14~15c)
図版11-2-18	土器	皿	高[1.3]	かわらけ/ロクロ成形/平底/底部に回転糸切り痕あり /胎土：色調は褐色、赤褐色粒子・砂粒・小礫を含む/ 底部小破片	在地系	遺構外	中世 (14~15c)
第26図19 図版11-2-19	土器	皿	高[1.3] 底(7.0)	かわらけ/ロクロ成形/平底/底部に回転糸切り痕あり /胎土：色調は褐色、赤褐色粒子・砂粒を含む/遺存 度：体部下半~底部30%	在地系	遺構外	近世 (詳細不明)
図版11-2-20	土器	始烙	厚1.0	口縁部外面に覆付着/胎土：色調は褐色、砂粒・小礫・ 金雲母片を多く含む/口縁部破片	在地系	遺構外	近世 (17c)

第14表 遺構外出土陶磁器・土器一覧

第4章 田子山遺跡第129地点の調査

第1節 遺跡の概要

(1) 立地と環境

田子山遺跡は、志木市本町2丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北西約1.3km、柳瀬川駅の東約1.8kmに位置している。本遺跡は、新河岸川右岸の台地上に立地しており、標高は約15m、低地との比高差は約10mである。

遺跡の周辺を眺めてみると、北側は際立った断崖地形になっており、その眼下には新河岸川が流れている。遺跡の現況は、古くから個人専用住宅を中心として小規模住宅が密集している地区であり、最近では、過去に埋蔵文化財保存措置を講じた地点の建替えや新たに分譲住宅建設を実施する計画の照会があるなど、今後も増加する見込みである。

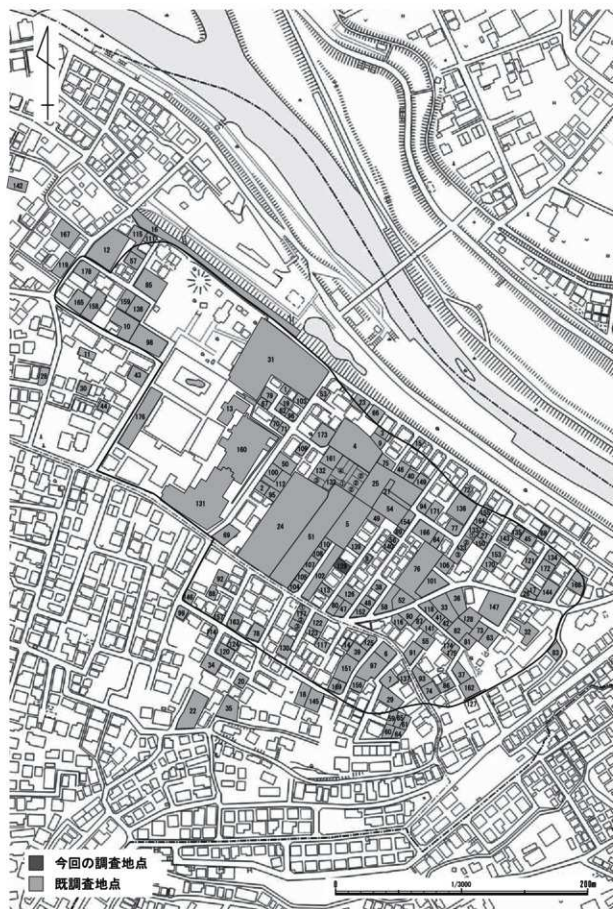
本遺跡は、これまでに177地点の調査（令和5年2月20日現在）が実施され（第27図）、縄文時草創～晩期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代、中・近世、近代に至る複合遺跡であることが判明している。

(2) 発掘調査の経過

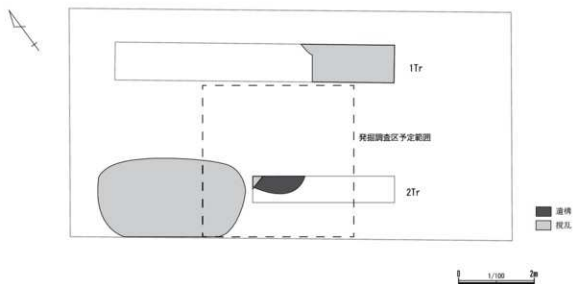
確認調査は、平成25年8月22日に実施した。調査区内に2本のトレンチ（1・2 Tr）を設定し、バックホーを使用し表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の集石1基を確認した（第28図）。そのため、ただちに依頼者に調査の結果を報告し、保存対策について検討を依頼したが、保護層30cm以上を確保することは難しく、盛土保存は不可能であるという回答を得た。そのため、平成25年9月6日から発掘調査を実施することに決定した。

以下、発掘調査の大まかな経過を説明することにする。

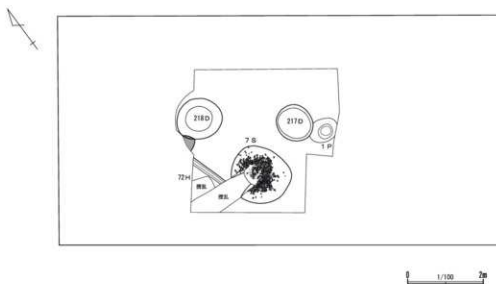
- 9月6日 重機により調査区の表土剥ぎ作業を開始する。本日中に重機による表土剥ぎ作業を終了し、人員導入による発掘作業を開始する。調査区の整備と細部の遺構確認作業を行い、遺構検出状況の写真撮影を行う。縄文時代の集石（7S）、平安時代の土坑（217D）・ピット（1P）の精査を開始する。本日中に217Dの精査を終了する。
- 9日 7Sでは、礫の出土状況の写真撮影を行う。微細図で記録しながら、礫を取り上げていった。平安時代の土坑（218D）の精査を開始する。1Pの精査を終了する。
- 10日 218Dの精査を終了する。平安時代の住居跡（72H）を検出。
- 11日 72Hの精査を開始する。完掘し、写真撮影、平面図を作成する。カマドの精査を行う。掘り方の精査を行い、本日中に72Hの精査を終了する。
- 12日 7Sの土層断面を写真撮影し、断面図で記録する。セクションベルトの掘削を行う。
- 13日 7Sを完掘し、写真撮影を行い、平面図を作成し、終了する。埋め戻し作業を開始し、本日中に埋め戻し作業を終了する。すべての調査を完了する。



第27図 田子山遺跡の調査地点 (1/3,000)



第28図 確認調査時の遺構分布 (1/100)



第29図 遺構分布図 (1/100)

第2節 検出された遺構・遺物

(1) 概要

本地点の調査では、平安時代の住居跡1軒(72H)・土坑2基(217・218D)、縄文時代の集石1基(7S)、平安時代のピット1本(1P)が検出された。遺構外出土遺物としては、縄文時代の土器と平安時代以降の遺物が出土した。

(2) 住居跡

72号住居跡

遺構 (第30図)

〔位置〕 調査区南西端。

〔検出状況〕 218Dに切られる。攪乱によって大部分を破壊されており、東側の床面・壁溝・カマドのそれぞれ一部が検出されたのみである。また、遺構検出時にすでに床面が検出された状況であった。

〔構造〕 平面形：不明。規模：不明。壁：不明。主軸方位：N-71°-W。壁溝：東側の一部が検出された。上幅14~17cm/下幅5~7cm/床面からの深さ7~10cm。床面：部分的に硬化した面が確認された。カマド：東側で確認できた。主軸方位は不明。検出長30cm/検出幅38cm/壁への掘り込み不明。燃焼部は攪乱されていたため、確認されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：確認されなかった。入口施設：検出されなかった。掘り方：検出された範囲では5cm程度の深さで掘り込まれていた。

〔覆土〕 2層に分層された。1層は壁溝覆土、2層は貼床土である。

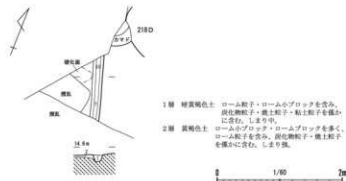
〔遺物〕 須恵器环形土器、土師器甕形土器が出土した。

〔時期〕 平安時代(9世紀後葉~末葉)。

遺物 (第31図、図版13-5、第15表)

1・2は須恵器环形土器で、すべて酸化炭焼成の土器である。

3・4は土師器甕形土器で、いわゆる武蔵型甕である。ただし、4については、器厚が厚ぼったく、胎土が黄白色で砂粒を多く含むことから、在地系のもと思われる。218D-7(第33図7、図版13-6-7)と同一個体と思われるが接合できなかった。



第30図 72号住居跡 (1/60)



第31図 72号住居跡出土遺物(1/4)

検出番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
図版 13-5-1	須恵器 環	口縁部 小破片	厚 0.5	全体に口縁部にかけて外積する ／酸化炎焼成	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転	淡黄褐色／砂粒を 僅かに含む	覆土中
図版 13-5-2	須恵器 環	口縁部 小破片	厚 0.3	全体に口縁部にかけて外積する ／酸化炎焼成／1より薄手	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転	淡黄褐色／砂粒を 僅かに含む	覆土中
第31図3 図版 13-5-3	土師器 甕	口縁部～ 胴部上半 破片	高 15.31 厚 0.6	いわゆる武蔵型甕／口縁部はや や「コ」の字状／器厚はやや厚 ぼったい／内外面に黒点あり／	内面：横ナデ／外面：口縁部は横 ナデ。直下には指画による成形痕 が残る	明茶褐色／砂粒を 含む	覆土中
第31図4 図版 13-5-4	土師器 甕	胴部中位 ～下半 40%	高 7.7 厚 0.4	いわゆる武蔵型甕／胴部中位に 影らみをもつ／厚ぼったく、色 調が白っぽい／在地系か／ 218D-7と同一個体と思われる	内面：ヘラナデ／外面：胴部中位 は斜方向、下半は縦方向のヘラ削 り	黄白色／砂粒を多 く、茶褐色粒子・ 小石を含む	覆土中

第15表 72号住居跡出土土器一覧

(3) 土 坑

217号土坑

遺 構 (第32図)

[位 置] 調査区中央南東側。

[検出状況] 1Pを切る。

[構 造] 平面形：円形。規模：長軸1.02m／短軸0.92m／深さ10cm。壁：皿状に立ち上がる。長軸
方位：N-7°-W。

[覆 土] 単層。

[遺 物] 須恵器環・甕形土器、土師器甕形土器が出土したが、小破片のため図示できなかった。

[時 期] 平安時代。

218号土坑

遺 構 (第32図)

[位 置] 調査区西端。

[検出状況] 72Hを切る。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸1.24m／短軸0.98m／深さ56cm。壁：70～75°で直線的に
立ち上がる。長軸方位：N-73°-W。

[覆 土] 13層に分層された。外側から流れ込むような堆積状況を示す。

[遺 物] 須恵器蓋・環形土器、土師器甕形土器、瓦(布目瓦)が出土した。

[時 期] 平安時代(9世紀末葉～10世紀初頭)。

遺物 (第33図、図版13-6、第16表)

[土器] (第33図4~7、図版13-6-1~7、第16表)

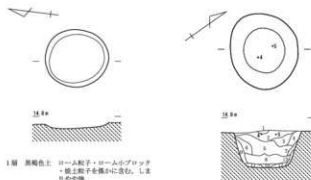
1は須恵器蓋形土器の小破片で、酸化炭焼成の土器である。

2~6は須恵器環形土器で、すべて酸化炭焼成の土器である。4~6は高台をもつ。

7は土師器甕形土器で、いわゆる武蔵型甕であるが、器厚が厚ぼったく、胎土が黄白色で砂粒を多く含むことから、在地系のものと思われる。72H-4 (第31図4、図版13-5-4) と同一個体と思われるが接合できなかった。

[瓦] (第33図8、図版13-6-8)

8は布目瓦の破片である。平瓦で、凹面には布目痕、凸面には叩き目の縄席文が残り、縄叩き後、一部ナデ調整が施される。側面にはヘラケズリ調整が施される。凸面の欠損面の一部に研磨面が認められる。現存長7.5cm・現存幅4.4cm・厚さ1.5cm・重さ58.5g。色調は灰黄色で、胎土には砂粒、小礫が極僅かに含まれる。



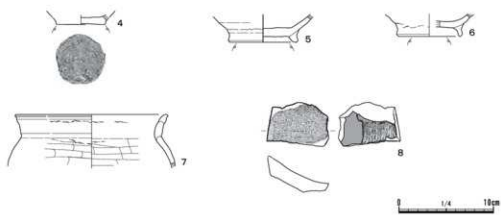
1層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・酸化炭粒子を多く含む。しまりや中塊。

- 1層 黒褐色土 胎土・粘土粒子を含む。ローム粒子・粘土粒子を多く含む。しまりや中塊。粘性や中あり。
- 2層 黒褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・ロームブロック・酸化炭粒子。粘土粒子を多く含む。しまりや中塊。
- 3層 黒褐色土 ローム粒子を多く含む。ローム小ブロック・酸化炭粒子を含む。ロームブロックを多く含む。しまりや中塊。
- 4層 黒褐色土 ローム粒子を含む。酸化炭粒子を多く含む。しまりや中塊。
- 5層 黒褐色土 酸化炭粒子を多く含む。ローム粒子・ロームブロックを含む。ローム小ブロックを多く含む。しまりや中塊。褐色土が混入している。
- 6層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・酸化炭粒子を多く含む。しまりや中塊。
- 7層 黒褐色土 ローム粒子を多く含む。ローム小ブロックを多く含む。しまりや中塊。
- 8層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・酸化炭粒子を含む。ロームブロックを多く含む。しまりや中塊。
- 9層 黒褐色土 ローム粒子を多く含む。ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。
- 10層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりや中塊。
- 11層 黒褐色土 ローム粒子を多く含む。ローム小ブロックを多く含む。しまりや中塊。
- 12層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや中塊。
- 13層 黒褐色土 ローム粒子を多く含む。ローム小ブロックを含む。ロームブロックを多く含む。しまりや中塊。

217号土坑

218号土坑

第32図 土坑 (1/60)



第33図 218号土坑出土遺物 (1/4)

探検番号 図版番号	器種	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
図版 13-6-1	須恵器 蓋	口縁部 小破片	厚0.4	口縁部は屈曲し外面に面取りがまわる/ 酸化炎焼成	ロクロ成形/ロクロ回転 は右回転	黄褐色陶/砂粒を 含む	覆土中
図版 13-6-2	須恵器 環	口縁部～ 体部下半 破片	厚0.5	口縁部は肥厚し外反する/体部はやや膨 らみをもつ/全体的に厚手/内面に煤付 着あり/酸化炎焼成	ロクロ成形/ロクロ回転 は右回転	黄褐色/角閃石・ 茶褐色粒子を僅かに 砂粒を含む	覆土中
図版 13-6-3	須恵器 環	口縁部～ 体部中心 破片	厚0.3	口縁部は僅かに肥厚し外反する/全体的 に薄手/酸化炎焼成	ロクロ成形/ロクロ回転 は右回転	淡褐色/金雲母・ 黄褐色粒子/茶褐 色粒子を僅かに砂 粒を含む	覆土中
第33図4 図版 13-6-4	須恵器 環	底部のみ 100%	高11.0 底 5.2	平底/酸化炎焼成	ロクロ成形/ロクロ回転 は右回転/底部に回転糸 切り痕	黄褐色/金雲母・ 茶褐色粒子を僅かに 砂粒を含む	北壁寄りの覆 土上層
第33図5 図版 13-6-5	須恵器 環	体部下半 ～底部 70%	高12.9 底 7.4	高台は付高台/底部に回転糸切り痕あり /内面底部から立ち上がり部分に巻かれた 平滑面がある、碗に転用されたものか/ 酸化炎焼成	ロクロ成形/ロクロ回転 は右回転	暗黄褐色/茶褐色 粒子・金雲母・白 色砂粒を含む	南壁寄りの覆 土上層
第33図6 図版 13-6-6	須恵器 環	体部下半 ～底部 40%	高12.4 底(7.0)	高台は付高台/底部に回転糸切り痕あり /酸化炎焼成	ロクロ成形/ロクロ回転 は右回転	淡褐色/大粒の黄 褐色粒子(大きく て5×3mm)/砂粒 を含む	覆土中
第33図7 図版 13-6-7	土師器 甕	口縁部～ 胴部上半 20%	高15.7 口(16.2)	いわゆる武蔵型甕/口縁部形態は基本的 に「く」の字状であるが、外面口唇部直 下と頸部に太沈線をまわすことにより 「コ」の字状を意図している感がある/厚 ぼったく、色調が白っぽい/在地形か/ 72H-4と同一個体と思われる	内面:口縁部は横ナデ、 胴部はヘラナデ/外面: 口縁部は横ナデ。以下は ヘラ削り/口縁部外面に 輪積み痕が見える	黄白色/砂粒を多く 、茶褐色粒子・ 小石を含む	覆土中

第16表 218号土坑出土土器一覧

(4) 集石

7号集石

遺 構 (第34図)

[位 置] 調査区中央南西側。

[検出状況] 中央部から西側の立ち上がりにかけて、大きく攪乱を受ける。

[構 造] 平面形:楕円形。規模:検出長1.56m/幅1.47m/深さ47cm。壁:碗状に立ち上がる。長軸方位:N-22°-W。

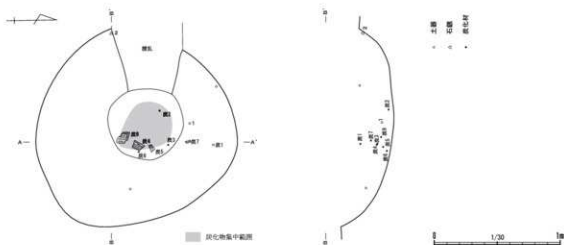
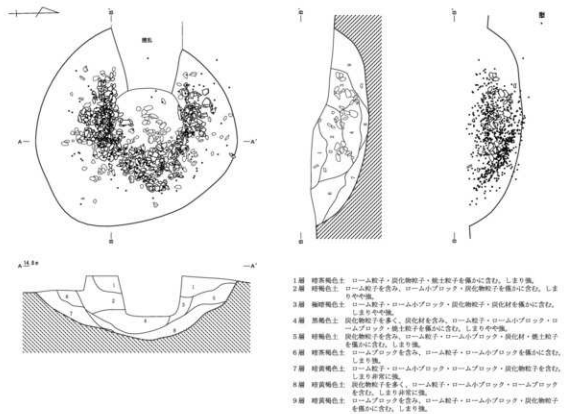
[覆 土] 9層に分層された。2～4層は礫が集中して出土した層であり、暗褐色～黒褐色土を呈しており、黒味が強い。6～9層は暗茶褐色～暗黄褐色土であり、黄色味のある土層である。

[遺 物] 土器3点、石器1点(石鏃1点)が出土した。その他に礫833点、炭化材が出土した。礫は中央1m×1mの範囲から集中して出土し、特に2・3層からの出土が多い。炭化材は4層の黒褐色土層内から集中して出土した。なお、炭化材(炭1・2)の放射性炭素年代測定の結果、炭1は2000年程度(確率95.45%)で3341-3257 cal BC (32.42%)および3255-3098 cal BC (63.03%)、炭2は3349-3262 cal BC (29.55%)および3249-3100 cal BC (65.90%)の暦年代が得られた(77ページを参照)。また、樹種同定の結果、炭1・2ともにコナラ属クヌギ節であることが判明している(79ページを参照)。

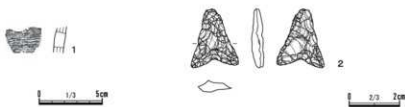
[時 期] 出土した土器から縄文時代前期後葉(諸磯式期)。ただし、炭化材の放射性炭素年代測定の結果は縄文時代中期初頭～前葉であった。

遺 物 (第35図、図版13-7)

[土 器] (第35図1、図版13-7-1)



第34図 7号集石 (1/30)



第35図 7号集石出土遺物 (1/3・2/3)

1は縄文時代前期後葉の諸磯式土器の胴部破片である。半截竹管工具による集合沈線文を横位に施文されている。胎土の色調は橙色で、胎土には砂粒・角閃石・チャート・橙色粒子を含む。厚さは0.8cmを測る。

[石 器] (第35図2、図版13-7-2)

2は黒曜石製の石鎌である。先端部を一部折損する。基部は浅く逆「V」字状に抉れる凹基のものである。両側縁は直線的だが僅かに屈曲が認められる。両面に押圧剥離による調整剥離が施されるが、裏面一部に素材面が残る。正面・裏面・折損面ともに表面の状態がくすんだ光沢面であり、稜線、両側縁は全体的に摩耗し、潰れている。基部には縁辺の潰れは認められない。長さ2.3cm、幅1.8cm、厚さ0.4cm、重さ1.5g。

(5) ピット

1号ピット

遺 構 (第36図)

[位 置] 調査区南東端。

[検出状況] 217Dに切られる。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：／長軸80cm／短軸61cm／深さ57cm。壁：下端から中端までは垂直気味に立ち上がり、中端で段差気味となり、上端にかけて斜めに立ち上がる。

[覆 土] 9層に分層された。

[遺 物] 須恵器甕形土器が出土したが、小破片のため図示できなかった。

[時 期] 平安時代。

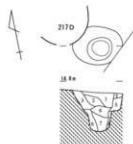
(6) 遺構外出土遺物 (第37図、図版14-1、第17表)

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時代の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の土器、平安時代以降の遺物に分類する。

① 縄文時代の土器 (第37図1～3、図版14-1-1～3、第17表)

1は早期後葉の条痕文系土器である。



- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりややぬ。
- 2層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子を僅かに含む。しまりややぬ。
- 3層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。しまりややぬ。
- 5層 黄褐色土 ロームブロックを多く、ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
- 6層 暗褐色土 ロームブロックを多く、ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまりややぬ。
- 8層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりややぬ。
- 9層 暗褐色土 ロームブロックを多く、ローム粒子を含む。しまりややぬ。



第36図 1号ピット (1/60)

2は縄文時代前期後葉の諸磯a式土器である。

3は縄文時代中期中葉の阿玉台式土器である。

②平安時代以降の遺物 (第37図4～11、図版14-1-4～11、第17表)

[土器] (第37図4～9、図版14-1-4～9、第17表)

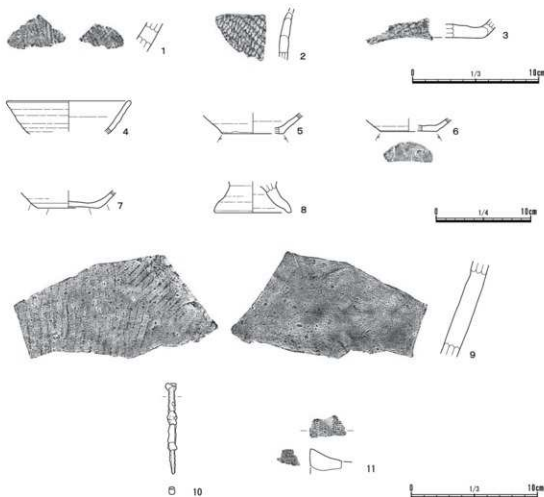
4～7は須恵器環形土器、8は土師器甕形土器、9は須恵器甕形土器である。

[鉄製品] (第37図10、図版14-1-10)

10は釘である。長さ7.2cm・幅0.5cm・頭部最大幅0.8cm・厚さ0.6cm・重さ4.5g。断面は長方形で頭部は欠損している。遺構外からの出土である。

[瓦] (第37図11、図版14-1-11)

11は布目瓦の小破片である。平瓦で、凹面には布目痕が残る。側面はヘラケズリ調整が施される。現存長さ3.2cm・現存幅2.7cm・厚さ1.3cm・重さ8g。色調はにぶい黄橙色で、胎土には砂粒、小礫、赤褐色粒子が極僅かに含まれる。遺構外からの出土である。



第37図 遺構外出土遺物 (1/4・1/3)

発掘番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態等	文様・調整等	胎土	時期型式	出土遺構 出土位置
第37図1 図版14-1-1	深鉢	胴部 破片	厚1.2	胴部下位～底部付近 か/外積	内外面に縦方向の条状文	にぶい橙/砂粒・ 礫多量	縄文時代早期後 葉(条直文系)	218 D
第37図2 図版14-1-2	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	外反して外積/偽口 縁	地文は単筋R L横位施文/輪 積み痕を残す	にぶい橙/砂粒・ 礫中量、角閃石少量	縄文時代前期後 葉(渦濺a式)	218 D
第37図3 図版14-1-3	深鉢	底部 破片	厚1.0	平坦な底部	地文は単筋R L斜位施文	にぶい赤褐色/砂粒・ 礫・雲母多量	縄文時代中期中 葉(阿玉台式)	確認調査
第37図4 図版14-1-4	須恵器 環	口縁部～体 部下半破片	高13.5 底13.0	口縁部は外積する/ 全体的に薄手/酸化 炎焼成	ロクロ成形/ロクロ回転は右 回転	黄褐色/茶褐色粒 子・角閃石・砂粒 を含む	平安時代 (9c末葉～ 10c前葉か)	遺構外
第37図5 図版14-1-5	須恵器 環	体部下半～ 底部破片	高12.2 底6.8	平底/還元炎焼成/ 東金子製品	ロクロ成形/ロクロ回転は右 回転/底部に回転糸切り痕	灰白色/白色砂粒 を僅かに含む	平安時代 (9c末葉～ 10c前葉か)	確認調査
第37図6 図版14-1-6	須恵器 環	体部下半～ 底部破片	高11.4 底6.2	平底/酸化炎焼成	ロクロ成形/ロクロ回転は右 回転/底部に細線により刻溝 か/底部に回転糸切り痕	明褐色/茶褐色粒 子・白色砂粒を僅 かに含む	平安時代 (9c末葉～ 10c前葉か)	遺構外
第37図7 図版14-1-7	須恵器 環	体部下半～ 底部70%	高11.8 底6.4	平底/酸化炎焼成	ロクロ成形/ロクロ回転は右 回転/底部は露辺へラ削り	黄褐色/茶褐色粒 子・角閃石・砂粒 を含む	平安時代 (8c後葉か)	遺構外
第37図8 図版14-1-8	土師器 甕	脚台部破片	高13.3 底8.2	脚台部は短く「ハ」 の字状/器部は内湾 する/厚ぼった土器	内外面：横ナデ	黄褐色/砂粒をや や多く含む	平安時代 (9c末葉～ 10c前葉か)	遺構外
第37図9 図版14-1-9	須恵器 甕	胴部下半破 片	厚1.2	胴部下半破片/東金 子製品か	内面：回転によるナデ/外 面：明き成形(平行タタキ目 痕)	暗灰色/白色砂粒 をやや多く含む	平安時代 (9c代か)	遺構外

第17表 遺構外出土土器一覽

第5章 調査のまとめ

第1節 中野遺跡第87地点の調査成果

(1) 中世以降の遺構について

本地点からは、中世以降の段切状遺構1か所・掘立柱建築遺構1棟(1T)・土坑7基(121～127D)・井戸跡1基(8W)・ピット41本(1～41P)が検出された。

まず、本地点の基本土層について、第2章第1節(3)で基本層序の断面を観察・検討した結果、本地点全体に立川ローム第Ⅲ～Ⅴ層が削平されていることが分かった。中野遺跡周辺の基本層序で第Ⅲ～Ⅴ層の層厚は、本地点南側の第109地点(尾形・徳留・大久保・市川・梶ヶ山・植月 2021)で本地点に近接する13号試掘坑で約60cmである。本地点においても同様な層厚とすれば、当時の地表面を考慮し、60cm以上の削平が行われ、段切状遺構が形成されたと考えられる。

段切状遺構の造成後には、土坑・溝跡・ピットが構築されたと考えられる。その分布を見ると、本調査区の中央から西側に偏在している。中央の8Wを境に東側には遺構は検出されておらず、むしろ東端でやや窪んだ面に造成されている。そして、注目すべきは、段切状遺構の平場面が、窪み面を除き、硬化していることである。硬化面の形成要因としては、日常生活の中での踏み固めが想定されるが、そのように考えた場合、窪み面周辺までは、人の行き来があったということであろうか。逆に窪み面は人が立ち入らなかった場所ということが言える。窪み面周辺に遺構が検出されていないことも、そのことを示唆しているようか。窪み面が何であったかを示すことは现阶段では難しく、周辺地点の調査成果とともに段切状遺構エリア内での土地利用を全体で見えていく必要がある。

第2節 中道遺跡第74地点の調査成果

本地点からは、縄文時代の土坑2基(172・173D)・ピット26本(18・257～271・283・284・297・298・358・377・380～382・397P)、中世以降の段切状遺構1か所、土坑19基(166～171・174～186D)・溝跡4本(25～28M)・ピット371本(1～17・19～256・272～282・285～296・299～357・359～376・378・379・383～396P)が検出された。

ここでは、特に中世以降の遺構について若干のまとめを行うこととする。

(1) 中世以降の遺構・遺物について

今回検出された中世以降の遺構形成の推移について、遺構の切り合い関係、出土遺物から段階ごとに見ていくこととする。

1期：段切状遺構造成期(中世：14～15世紀代)

段切状遺構と他の遺構との切り合い関係については、178・179D、25・28Mは段切状遺構底面直上の覆土を切っていることから、段切状遺構造成後に構築されたものと考えられる。また、28Mを切

る26Mや、179Dを切る27Mについても同様である。段切状遺構の年代は、出土した陶器や土器（図版10-1-1～3）の時期から14～15世紀代と考えられる。他の遺構で14～15世紀代のものは、168・169・178D、26Mであった。28Mについては、遺物から中世としたが、切り合い関係を見ていくと、26M（14世紀代）に切られ、段切状遺構覆土下層を切ることから、段切状遺構→28M→26M（14世紀代）の推移をたどることができ、14世紀代の所産と考えることができる。

よって、1期では、14～15世紀にかけて、段切状遺構が造成され、その直後に土坑や溝跡など（178・179D、26～28M）が形成されたと考えられる。また、段切状遺構の段差部分にピットがおびただしく検出されていることは、櫛列などが段を境にして構築されていた可能性がある。段切状遺構とピットとの有機的な関係性に注目されよう。

2期：段切状遺構造成後の時期（近世：18世紀後半）

段切状遺構構築後の遺構で近世に属するものは、25Mが挙げられる。25Mは、178D（14～15世紀）を被覆する段切状遺構覆土を切っており、出土遺物から18世紀後半と位置付けられる。また、25Mを切り、段切状遺構の覆土に被覆されず表土直下から形成されている遺構としては、174～176Dが挙げられる。これらは出土遺物こそなかったが、非常に新しい段階のものと考えられる。

（2）大塚千手堂と今回検出された遺構との関連について

（1）では、本地点の中世以降の遺構形成段階について、大きく2時期に分けることができた。特に1期中世の遺構が多く、時期的にも14～15世紀でまとまるのが分かった。では、14～15世紀代に該当する本地点周辺での史実としては、何が挙げられるであろうか。そのひとつに、大塚千手堂が挙げられる。大塚千手堂は本地点の南西約50m先に現在も現存し、古くは「松林山観音寺大学院」の天台宗寺院で「七堂伽藍」を擁するほどの大寺院と言われている（志木市教育委員会 1978）。創建年代は明らかではないが、本尊（千手観音菩薩）が鎌倉末期から室町中期頃の作とされ（志木市教育委員会 1978）、1300～1450年代と推定される。この年代はちょうど本地点の1期の遺構群の時期と合致している。

このことから、寺の創建にあたり、土地造成が行われ（段切状遺構）、区画等の溝跡（26～28M）やピットが構築されたと見ることはできないであろうか。推測の域を出ないが、本地点周辺が大塚千手堂関連の地域であり、中世期の遺構はそれに関連する可能性が高いことから、今後、本地点周辺での掘立柱建築遺構や仏教関連遺物の検出に期待し、注目していきたい。

第1節 田子山遺跡第129地点の調査成果

本地点からは、縄文時代の集石1基（7S）、平安時代の住居跡1軒（72H）・土坑2基（217・218D）・ピット1本（1P）が検出された。ここでは、縄文時代の集石について簡単に所見をまとめる。

（1）7号集石について

7Sは中央部から西側にかけて大きく攪乱を受けていたが、833点の礫、炭化材が出土した（第34図）。覆土の堆積状況と礫、炭化材の出土状況、出土層位に注目すると、まず、覆土は大きく上下2層

に分けられる。上層は1～4層で、特に2・3層から礫が集中して出土する。4層からは炭化材・炭化物が集中して出土した。下層は5～9層で、壁面・底面直上に堆積する層である。下層からは礫・炭化材の出土がほとんどなかった。平面分布からは、掘り込みの中央部に密集し、立ち上がり付近には礫・炭化材の出土は見られなかった。

こうした堆積状況・出土状況から、7Sの形成過程を考えると、以下のような工程が考えられる。

①碗状の掘り込み(掘り方)。②5～9層の堆積。③燃料となる木材(炭化材)の設置・燃焼。④礫の投入。⑤使用後の埋没(1～4層の堆積)。

礫集中部の下から炭化材が検出された例として、中村氏が入間市東武蔵野遺跡の第1号集石(西井・金子・木戸・村田 1996)を挙げている(中村 2001)。中村氏は東武蔵野遺跡の事例を、自身が実験研究を実施した方法によれば火炎礫上焼石法とし、坑底直上の覆土が黒褐色土で、その直上から炭化材が検出されたことから、坑底直上の黒褐色土は前回使用の埋土が残った結果であり、複数回にわたって使用したものと想定している(中村 2001)。出土状況が類似する7Sも同様の使用方法であったと思われる。ただし、7Sの場合は、坑底直上の覆土(5～9層)は暗褐色土～暗黄褐色土の覆土であり、ローム土を主体としている。そのため、5～9層は掘り方掘削時のローム残土の可能性、貼床や壁の形成土の可能性が考えられる。

なお、7Sと同様の出土状況を示す集石として市内では、田子山遺跡第39地点の2号集石(佐々木・尾形 1997)、同第69地点の4号集石(尾形・佐々木・深井 2002)、同第65地点の4号集石(尾形・藤波・青柳 2007)、城山遺跡第60地点の3～5号集石(尾形・藤波・鈴木・中村 2008)、西原大塚遺跡第110地点の24号集石(佐々木・内野・宮川 2005)などが挙げられる。

また、7Sの年代的な位置づけについては、出土土器から前期後葉の諸磯式期としたが、炭化材の放射性炭素年代測定の結果では中期初頭～前葉であり、齟齬が生じている。田子山遺跡内の縄文時代集落がどの時期に、どう展開しているのかの検討を踏まえ、7Sの位置づけを考えていく必要がある。

[引用・参考文献]

- 尾形剛敏・藤波啓容・青柳美雪 2007『中道遺跡第65地点 発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第12集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 尾形剛敏・藤波啓容・鈴木 徹・中村真理 2008『城山遺跡第50・60地点 発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第17集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 尾形剛敏・佐々木保俊・深井恵子 2002『志木市遺跡群12』志木市の文化財第32集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・徳留彰紀・大久保聡・市川康弘・梶ヶ山真理・植月 学 2021『中野遺跡第109地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第82集 埼玉県志木市教育委員会
- 佐々木保俊・尾形剛敏 1997『志木市遺跡群Ⅳ』志木市の文化財第25集 埼玉県志木市教育委員会
- 佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳 2005『西原大塚遺跡第110地点 発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第9集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 志木市教育委員会 1978『志木市郷土誌』志木市
- 中村倉司 2001『遺跡と集石土壌—蒸焼き調理法の意義—』『埼玉考古』第36号 埼玉考古学会
- 西井幸雄・金子直行・木戸春夫・村田章人 1996『丸山／青梅道南／十文字原／東武蔵野／西武蔵野』財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第164集 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

[付 編]

自然 科学 分析

I. 田子山遺跡第129地点の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ

伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadize・森 将志

1. はじめに

埼玉県志木市の田子山遺跡第129地点より採取された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、同一試料を用いて樹種同定も行われている（樹種同定の項参照）。

2. 試料と方法

測定試料は、縄文時代前期と考えられている7号集石から採取された炭化材2点である。測定試料の情報、調製データは第18表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンバクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-45287	遺構：7号集石 試料No.1 炭1	種類：炭化材（コナク属クヌギ節） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L、水酸化ナトリウム： 1.0 mol/L、塩酸：1.2 mol/L）
PLD-45288	遺構：7号集石 試料No.2 炭2	種類：炭化材（コナク属クヌギ節） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L、水酸化ナトリウム： 1.0 mol/L、塩酸：1.2 mol/L）

第18表 測定試料および処理

3. 結果

第19表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、第38図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1,950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い（¹⁴Cの半減期5,730 \pm 40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年較正にはOxCal4.4（較正曲線データ：IntCal20）を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP \pm 1 σ)	^{14}C 年代 (yrBP \pm 1 σ)	^{14}C 年代を暦年時代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-45287 炭1	-28.63 \pm 0.12	4495 \pm 23	4495 \pm 25	3334-3310 cal BC (10.63%) 3299-3284 cal BC (6.37%) 3274-3267 cal BC (3.08%) 3242-3213 cal BC (13.31%) 3190-3147 cal BC (19.12%) 3139-3103 cal BC (15.75%)	3341-3257 cal BC (32.42%) 3255-3098 cal BC (63.03%)
PLD-45288 炭2	-26.95 \pm 0.16	4506 \pm 23	4505 \pm 25	3340-3318 cal BC (10.15%) 3292-3290 cal BC (1.09%) 3238-3203 cal BC (16.62%) 3200-3173 cal BC (12.15%) 3163-3105 cal BC (28.27%)	3349-3262 cal BC (29.55%) 3249-3100 cal BC (65.90%)

第19表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.27%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2 σ 暦年代範囲は95.45%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

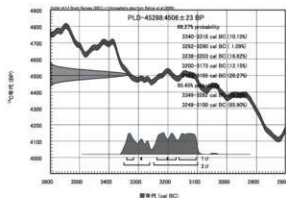
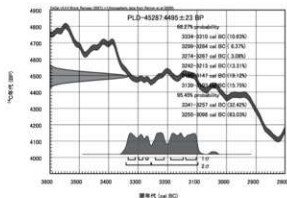
4. 考察

木材は、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、内側であるほど古い年代が得られる(古木効果)。7号集石から採取された炭化材は、最終形成年輪が残存しておらず、残存している最外年輪のさらに外側にも年輪が存在していたはずである。したがって、木材が実際に枯死もしくは伐採されたのは、測定結果の年代よりもやや新しい時期であったと考えられる。

炭1(PLD-45287)は2 σ 暦年代範囲(確率95.45%)で3,341-3,257 cal BC (32.42%) および3,255-3,098 cal BC (63.03%)、炭2(PLD-45288)は3,349-3,262 cal BC (29.55%) および3,249-3,100 cal BC (65.90%)の暦年代が得られた。小林(2017)による縄文時代の土器編年と暦年代の対応関係を参照すると、どちらも縄文時代中期初頭～前半に相当する暦年代であり、発掘調査所見による推定時期である縄文時代前期よりも150年以上新しい暦年代を示した。

[引用・参考文献]

- Bronk RAMSey, C. 2009 「Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon」51 (1), 337-360
- 小林謙一 2017 「縄文時代の実年代—土器型式編年と炭素14年代—」263p 同成社
- 中村俊夫 2000 「放射性炭素年代測定法の基礎」日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編『日本先史時代の ^{14}C 年代』3-20 日本第四紀学会
- Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk RAMSey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtman-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62 (4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)



第38図 暦年較正結果

Ⅱ. 田子山遺跡第129地点出土の炭化材の樹種同定

小林克也 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

埼玉県志木市の田子山遺跡第129地点で出土した炭化材の樹種同定を行った。なお、同一試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2. 試料と方法

試料は、7号集石から出土した炭化材2点である。放射性炭素年代測定では、縄文時代中期前半の暦年代を示した。

樹種同定は、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柃目）について、カミソリと手で割断面を製作し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製 VE-9800）にて鏡検および写真撮影を行った。

3. 結果

同定の結果、試料はいずれも広葉樹のコナラ属クヌギ節（以下、クヌギ節）であった。同定結果を第20表に示す。

試料No.	遺構名	遺物No.	試料名	樹種	放射性炭素年代測定による時期	年代測定番号
1	7号集石	炭1	炭化材	コナラ属クヌギ節	縄文時代中期前半	PLD-45287
2	7号集石	炭2	炭化材	コナラ属クヌギ節	縄文時代中期前半	PLD-45288

第20表 田子山遺跡第129地点出土炭化材の樹種同定結果

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版 14-2 に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) コナラ属クヌギ節 *Quercus sect. Aegilops* ブナ科 図版 14-2-1a-1c (No.1)、2a-2c (No.2)

年輪のはじめに大型の道管が 1～3 列並び、晩材部では急に径を減じた、厚壁で丸い道管が放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で、切削などの加工はやや困難である。

4. 考察

7号集石の炭化材 2 点は、いずれもクヌギ節であった。試料は、燃料材の残渣である可能性が考えられる。クヌギ節は堅硬な樹種で、燃料材としてみると火持ちが良く、薪炭材として利用される樹種である（伊東ほか 2011）。

埼玉県内で確認されている縄文時代中期の炭化材では、クリが最も多くみられ、少量ではあるがクヌギ節もみられる（伊東・山田編 2012）。遺跡周辺に生育していたクヌギ節を薪炭材として伐採利用していたと考えられる。

[引用文献]

- 伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂 2011『日本有用樹木誌』238p 海青社
伊東隆夫・山田昌久編 2012『木の考古学—出土木製品用材データベース—』449p 海青社

图 版



1. 調査区近景



2. 表土剥ぎ作業風景



3. 基本土層



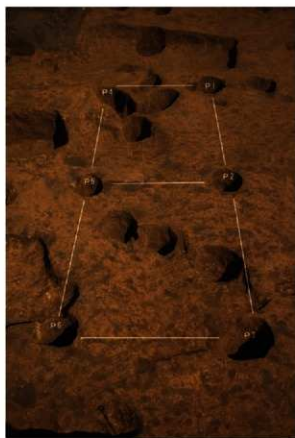
4. 調査区東半段切面(北西から)



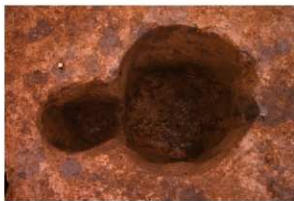
5. 調査区西半段切面(北から)



6. 調査区西半段切面(東から)



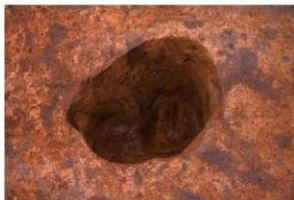
7. 1号掘立柱建築遺構(P1~P6)



1. 1号掘立柱建築遺構P 1



2. 1号掘立柱建築遺構P 2



3. 1号掘立柱建築遺構P 3



4. 1号掘立柱建築遺構P 4



5. 1号掘立柱建築遺構P 5



6. 1号掘立柱建築遺構P 6



7. 121号土坑



8. 122号土坑



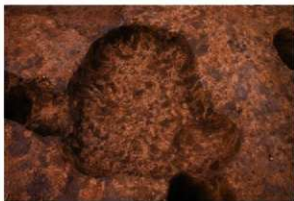
1. 123号土坑



2. 124号土坑



3. 125号土坑



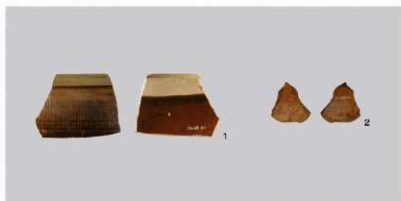
4. 126号土坑



5. 127号土坑



6. 8号井戸跡



7. 段切状遺構出土遺物



8. 遺構外出土遺物



1. 調査区近景



2. 確認調査風景



3. 表土剥ぎ作業風景



4. 調査風景



5. 172号土坑・265号ピット



6. 173号土坑



7. 258号ピット



8. 381号ピット



1. 段切状遺構(北から)



2. 段切状遺構南半部(東から)



3. 段切状遺構南半部(西から)



4. 段切状遺構西端部(北から)



5. 段切状遺構(西から)



6. 段切状遺構北半部(南西から)



7. 調査風景



8. 調査風景



1. 166号土坑



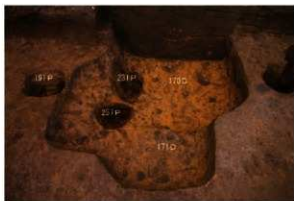
2. 167号土坑



3. 168号土坑



4. 169号土坑



5. 170・171号土坑



6. 174号土坑



7. 175・176号土坑



8. 177号土坑



1. 178号土坑



2. 179号土坑



3. 180号土坑



4. 181号土坑



5. 182号土坑



6. 183号土坑



7. 184•185号土坑



8. 186号土坑



1. 25号溝跡南半(北から)



2. 25号溝跡北半(北から)



3. 26号溝跡遺物出土状態



4. 26号溝跡遺物出土状態



5. 26号溝跡(北から)



6. 27号溝跡(北東から)



7. 28号溝跡



8. 28号溝跡



1. 6号ピット



2. 33号ピット



3. 51号ピット



4. 103号ピット遺物出土状態



5. 201号ピット



6. 274号ピット



7. 調査風景



8. 埋戻し作業風景



1. 段切状遺構出土遺物



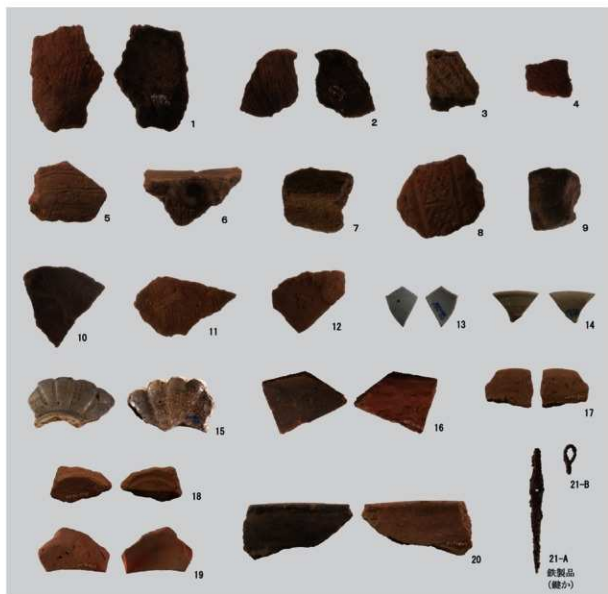
2. 土坑出土遺物



3. 溝跡出土遺物



1. ビット出土遺物



2. 遺構外出土遺物



1. 調査区近景



2. 確認調査風景



3. 72号住居跡



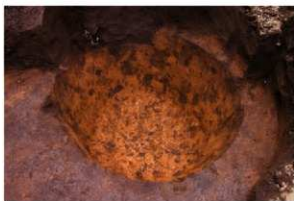
4. 72号住居跡掘り方



5. 72号住居跡掘り方(東から)



6. 217号土坑



7. 218号土坑



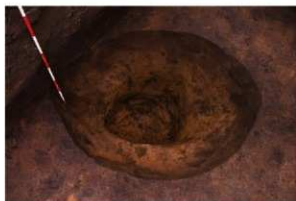
8. 7号集石礫出土状態



1. 7号集石土層断面(B-B')



2. 7号集石完掘



3. 1号ピット



4. 調査風景



5. 72号住居跡出土遺物

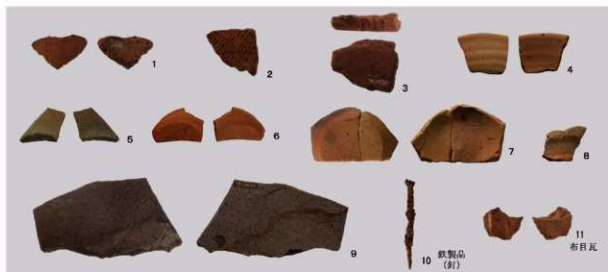


6. 218号土坑出土遺物

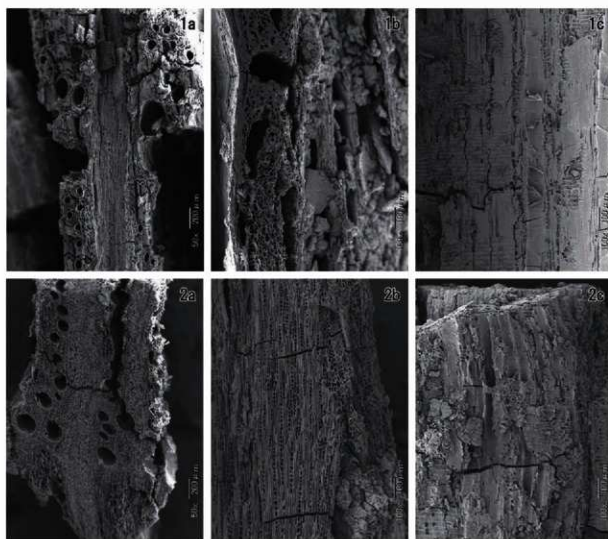


7. 7号集石出土遺物

布目瓦



1. 遺構外出土遺物



1a-1c. コナラ属クスギ節 (No. 1)、2a-2c. コナラ属クスギ節 (No. 2)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

2. 田子山遺跡第129地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

報告書抄録

ふりがな	しきしいせきぐん 26							
書名	志木市遺跡群 26							
シリーズ名	志木市の文化財							
シリーズ番号	第92集							
著者氏名	大久保忠 徳留彰紀 尾形剛敏							
編集機関	埼玉県志木市教育委員会							
所在地	〒353-0002 埼玉県志木市中宗園1丁目1番1号 TEL048 (473) 1111							
発行年月日	令和5 (2023) 年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (°'")	東経 (°'")	調査期間	調査面積 (㎡) (全体面積)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中野遺跡 (第87地点)	志木市 柏町 1丁目1484-12	11228	09-002	35° 50' 4"	139° 34' 24"	20140306 ～ 20140327	93.75 (159.36)	個人住宅建設
中道遺跡 (第74地点)	志木市 柏町 5丁目2983-4	11228	09-005	35° 49' 42"	139° 34' 3"	20131118 ～ 20140124	269.93	個人住宅建設
田子山遺跡 (第129地点)	志木市 本町 2丁目1732-17	11228	09-010	35° 49' 53"	139° 35' 59"	20130906 ～ 20130913	69.75	個人住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
中野遺跡 (第87地点)	集落跡・ 墓域	中世以降		段切状遺構 掘立柱建築遺構 土坑 井戸跡 ピット	1か所 1棟 7基 1基 41本	陶器・土器 なし なし なし なし		
中道遺跡 (第74地点)	集落跡・ 墓域	縄文時代 中世以降		土坑 ピット 段切状遺構 土坑 溝跡 ピット	2基 26本 1か所 19基 4本 371本	なし 土器 陶器・土器・瓦 陶器・土器・石製品 陶磁器・土器・石製品 磁器・石製品・鉄製品・ 銭貨		
田子山遺跡 (第129地点)	城館跡・ 集落跡	縄文時代 平安時代		集石 住居跡 土坑 ピット	1基 1軒 2基 1本	土器・石器 須恵器・土師器 須恵器・土師器・布目瓦 須恵器		
要約								
<p>中野遺跡は、旧石器時代～近世にかけての複合遺跡である。今回の調査では、中世以降の段切状遺構1か所・掘立柱建築遺構1棟・土坑7基・井戸跡1基・ピット41本が検出された。掘立柱建築遺構、土坑、溝跡、ピットは段切状遺構造成後の平場面に構築されていると考えられる。</p> <p>中道遺跡は、旧石器時代～近世にかけての複合遺跡である。今回の調査では、縄文時代の土坑2基・ピット26本、中世以降の段切状遺構1か所・土坑19基・溝跡4本・ピット371本が検出された。段切状遺構については明確な段差を確認することができ、段差周辺にはピットが帯状に集中する状況を確認できた。</p> <p>田子山遺跡は縄文時代～近代にかけての複合遺跡である。今回の調査では、縄文時代の集石1基、平安時代の住居跡1軒・土坑2基・ピット1本が検出された。縄文時代の集石では遺構の中央部に礫が集中し、下層付近から炭化材がまとまって出土した。炭化材については放射性炭素年代測定、樹種同定の自然科学分析を実施した。</p>								

志木市の文化財 第92集

志木市遺跡群 26

発行 埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号
発行日 令和5(2023)年3月29日
印刷 株式会社 白峰社